

審査意見（6月）別紙資料一覧

資料番号	資料の内容
1	子ども家庭福祉実践演習Ⅰ（施設） ①新シラバス
1	子ども家庭福祉実践演習Ⅰ（施設） ②旧シラバス
2	子ども家庭福祉実践演習Ⅱ（市町村、在宅） ①新シラバス
2	子ども家庭福祉実践演習Ⅱ（市町村、在宅） ②旧シラバス
3	子ども家庭福祉実践演習Ⅲ（児童相談所） ①新シラバス
3	子ども家庭福祉実践演習Ⅲ（児童相談所） ②旧シラバス
4	スーパービジョン特講 ①新シラバス
4	スーパービジョン特講 ②旧シラバス
5	時間割 ①新時間割
5	時間割 ②旧時間割
6	子ども家庭福祉実習Ⅰ（施設） ①新シラバス
6	子ども家庭福祉実習Ⅰ（施設） ②旧シラバス
7	子ども家庭福祉実習Ⅱ（市町村、在宅） ①新シラバス
7	子ども家庭福祉実習Ⅱ（市町村、在宅） ②旧シラバス
8	子ども家庭福祉実習Ⅲ（児童相談所） ①新シラバス
8	子ども家庭福祉実習Ⅲ（児童相談所） ②旧シラバス

# 【別紙資料1①】

科目名	子ども家庭福祉実践演習 I (施設)				
担当者	西澤 哲・相澤 仁・奥山眞紀子				
開講期	前期	履修年次	1年次	必修選択別	選択
単位数	1単位	時間数	30時間	授業形式	演習
カテゴリ	実習・演習科目 (演習科目)				

## 【科目の目的】

対人援助の人材養成に関する方法論の一つであるスーパービジョンによって、受講生の実践技能の向上を図る。また、スーパーバイザーとしての経験を基礎として、教員から指導や講義を受けることで、スーパービジョンの方法及び技法を修得する。

子ども家庭福祉実習 I (施設) において扱った事例について、事例検討レポートにまとめて報告した上で、大学教員とのディスカッションを通してスーパーバイズを受け、翌週の実習へ向かう循環漸進型の演習を行う。さらに、本演習においては、受講生間、もしくは受講生と教員によるスーパービジョンのロールプレイを行い、受講生はスーパーバイザーとして活動するための基礎を体験的に学修する。

この演習によって学生はスーパーバイズの方法論及び技法を学修し、スーパーバイズの提供のための基礎を修得する。

以下を参考に、自身の課題につながる指導が可能な担当を教員と相談の上、決定する。

西澤哲：子どもや親などの心理的課題に関わる領域を主として担当する。

相澤仁：施設養育、社会的養護、反社会的行動を顕著に示すようになった子ども、ソーシャルワークの問題等を主として担当する。

奥山眞紀子：子どもの医療的課題、トラウマ理解や援助に関わる領域を主として担当する。

## 【到達目標】

(知識・理解)

・自らの実践における課題を通して、身に着なければならぬ専門性を言語化できる。

(思考・判断・表現/思考・技能・実践)

- ・実践のなかで技能の向上を図り、改善点・向上点を言語化できる。
- ・スーパービジョンを受けることを通して、スーパービジョンの方法論及び技術を修得する。
- ・学生同士、又教員と学生とのロールプレイにより、スーパーバイザーとして活動するための基礎的な実践力を修得する。

(態度・志向性)

・適切なスーパーバイズの提供が可能になるよう学習に取り組む。

## 【授業内容】

- 第1回 オリエンテーション：授業の目的と方法
- 第2回 事例の分析とアセスメント①
- 第3回 事例の分析とアセスメント②
- 第4回 実習中のスーパービジョン①
- 第5回 実習中のスーパービジョン②
- 第6回 実習中のスーパービジョン③
- 第7回 実習中のスーパービジョン④
- 第8回 実習中のスーパービジョン⑤
- 第9回 実習中のスーパービジョン⑥
- 第10回 実習中のスーパービジョン⑦
- 第11回 実習中のスーパービジョン⑧
- 第12回 実習中のスーパービジョン⑨
- 第13回 スーパーバイザーによるスーパーバイズの技法の解説
- 第14回 ロールプレイと教員によるフィードバック

## 第15回 事例報告書の作成

### 【授業外の学修】

前回の実習に関するレポートを作成する。

### 【教育方法】

担当教員との対面形式によるスーパービジョンを受けることで、スーパーバイズの基礎を学ぶ。また、ロールプレイによって、スーパーバイザーの活動を体験的に学ぶ。

参考文献を購読し、事例の理解や支援の方法について担当教員と議論する。

### 【評価方法】

(知識・理解)

スーパービジョンで扱った事例の理解や支援に必要な知識・技能を有している。特に児童福祉施設に入所している子どもやその家族に関して十分な理解がある：30%

(思考・判断・表現／思考・技能・実践)

事例のフォーミュレーション(力動的アセスメント)が適切にできる：20%

スーパーバイズの方法や技法を理解し、実践できる：20%

(態度・志向性)

事例の力動的な理解に基づいた適切なスーパービジョンを提供できることを志向している：30%

### 【必携図書】

事例の特徴に応じて、その理解や支援に資する学術文献等を適宜指示する。

### 【参考図書】

福山・渡部・小野・浅野(共編) 保健・医療・福祉専門職のためのスーパービジョン：支援の質を高める手法の理論と実際 ミネルヴァ書房 2018

### 【履修上の注意】

特になし

### 【学生へのメッセージ】

本演習では教員によるスーパービジョンによって、児童福祉施設に入所している子どもやその家族に対する理解や支援のあり方を検討します。事例に関するスーパービジョンは、臨床的・ソーシャルワークの技能を修得するための非常に重要な機会となりますので、積極的に取り組んでください。

科目名	子ども家庭福祉実践演習 I (施設)				
担当者	西澤哲・相澤仁・奥山眞紀子				
開講期	前期	履修年次	1年次	必修選択別	選択
単位数	1単位	時間数	30時間	授業形式	演習
カテゴリ	実習・演習科目 (演習科目)				

### 【科目の目的】

対人援助の人材養成に関する方法論の一つであるスーパービジョンを用いて、実践能力の向上や支援している利用者のニーズ充足を図りつつ、学生の実践への支援を行う。

具体的には、1日2時間、週1日、8週の16時間以上実施し、子ども家庭福祉実習 I (施設)において扱った事例について、事例検討レポートにまとめ、発表した上で、大学教員とのディスカッションを通してスーパーバイズを受け、翌週の实習へ向かう循環漸進型の演習を行う。

以下を参考に、自身の課題につながる指導が可能な担当を教員と相談の上、決定する。

西澤哲：子どもや親などの心理的課題に関わる領域を主として担当する。

相澤仁：施設養育、社会的養護、反社会的行動を顕著に示すようになった子ども、ソーシャルワークの問題等を主として担当する。

奥山眞紀子：子どもの医療的課題、トラウマ理解や援助に関わる領域を主として担当する。

### 【到達目標】

(知識・理解)

- ・自らの実践における課題を通して、身に着なければならぬ専門性を言語化できる。

(思考・判断・表現/思考・技能・実践)

- ・実践のなかで技能の向上を図り、その成長を言語化できる。

(態度・志向性)

- ・実践に対し洞察を深めようとする態度を維持し続けられる。

### 【授業内容】

第1回 オリエンテーション：授業の目的と方法

第2回 自らの実践経験の振り返りと身につけるべき専門性の明確化①

第3回 自らの実践経験の振り返りと身につけるべき専門性の明確化②

第4回 実習計画書の作成①

第5回 実習計画書の作成②

第6回 実習計画書の作成③

第7回 実習中のスーパービジョン①

第8回 実習中のスーパービジョン②

第9回 実習中のスーパービジョン③

第10回 実習中のスーパービジョン

第11回 実習後の振り返り①

第12回 実習後の振り返り②

第13回 実習後の振り返り③

第14回 実習報告書の作成①

第15回 実習報告書の作成②

### 【授業外の学修】

授業時間外に、実習指導教員から指示された課題に取り組む。

### 【教育方法】

担当教員との対面形式によるスーパービジョンを受ける。

担当教員の指示により参考文献を精読した上で議論する。

### 【評価方法】

(知識・理解)

スーパービジョンで扱った事例の理解や支援に必要な知識・技能を有している。特に児童福祉施設に入所している子どもやその家族に関して十分な理解がある：30%

(思考・判断・表現／思考・技能・実践)

事例のフォーミュレーション(力動的アセスメント)が適切にできる：40%

(態度・志向性)

子どもや家族に対して常に理解的態度を持ち、ソーシャルワークの価値観に従った支援の展開を試みようとする：30%

### 【必携図書】

事例の特徴に応じて、その理解や支援に資する学術文献等を適宜指示する。

### 【参考図書】

福山・渡部・小野・浅野(共編) 保健・医療・福祉専門職のためのスーパービジョン：支援の質を高める手法の理論と実際 ミネルヴァ書房 2018

### 【履修上の注意】

特になし。

### 【学生へのメッセージ】

本演習では教員によるスーパービジョンによって、児童福祉施設に入所している子どもやその家族に対する理解や支援のあり方を検討します。事例に関するスーパービジョンは、臨床的・ソーシャルワークの技能を修得するための非常に重要な機会となりますので、積極的に取り組んでください。

科目名	子ども家庭福祉実践演習Ⅱ（市町村、在宅）				
担当者	西澤 哲・相澤 仁・奥山眞紀子				
開講期	前期	履修年次	1年次	必修選択別	選択
単位数	1単位	時間数	30時間	授業形式	演習
カテゴリ	実習・演習科目（演習科目）				

## 【科目の目的】

対人援助の人材養成に関する方法論の一つであるスーパービジョンによって、受講生の実践技能の向上を図る。また、スーパーバイザーとしての経験を基礎として、教員から指導や講義を受けることで、スーパービジョンの方法及び技法を修得する。

子ども家庭福祉実習Ⅱ（市町村・在宅）において扱った事例について、事例検討レポートにまとめて報告した上で、大学教員とのディスカッションを通してスーパーバイズを受け、翌週の実習へ向かう循環漸進型の演習を行う。さらに、本演習においては、受講生間、もしくは受講生と教員によるスーパービジョンのロールプレイを行い、受講生はスーパーバイザーとして活動するための基礎を体験的に学修する。

この演習によって学生はスーパーバイズの方法論及び技法を学修し、スーパーバイズの提供のための基礎を修得する。

以下を参考に、自身の課題につながる指導が可能な担当を教員と相談の上、決定する。

西澤哲：子どもや親などの心理的課題に関わる領域を主として担当する。

相澤仁：施設養育、社会的養護、反社会的行動を顕著に示すようになった子ども、ソーシャルワークの問題等を主として担当する。

奥山眞紀子：子どもの医療的課題、トラウマ理解や援助に関わる領域を主として担当する。

## 【到達目標】

（知識・理解）

- ・自らの実践における課題を通して、身に着なければならぬ専門性を言語化できる。

（思考・判断・表現／思考・技能・実践）

- ・実践のなかで技能の向上を図り、改善点・向上点を言語化できる。
- ・スーパービジョンを受けることを通して、スーパービジョンの方法論及び技術を修得する。
- ・学生同士、又教員と学生とのロールプレイにより、スーパーバイザーとして活動するための基礎的な実践力を修得する。

（態度・志向性）

- ・適切なスーパーバイズの提供が可能になるよう学修に取り組む。

## 【授業内容】

- 第1回 オリエンテーション：授業の目的と方法
- 第2回 事例の分析とアセスメント①
- 第3回 事例の分析とアセスメント②
- 第4回 実習中のスーパービジョン①
- 第5回 実習中のスーパービジョン②
- 第6回 実習中のスーパービジョン③
- 第7回 実習中のスーパービジョン④
- 第8回 実習中のスーパービジョン⑤
- 第9回 実習中のスーパービジョン⑥
- 第10回 実習中のスーパービジョン⑦
- 第11回 実習中のスーパービジョン⑧
- 第12回 実習中のスーパービジョン⑨
- 第13回 スーパーバイザーによるスーパーバイズの技法の解説
- 第14回 ロールプレイと教員によるフィードバック
- 第15回 事例報告書の作成

### 【授業外の学修】

前回の実習に関するレポートを作成する。

### 【教育方法】

担当教員との対面形式によるスーパービジョンを受けることで、スーパーバイズの基礎を学ぶ。また、ロールプレイによって、スーパーバイザーの活動を体験的に学ぶ。

参考文献を購読し、事例の理解や支援の方法について担当教員と議論する。

### 【評価方法】

(知識・理解)

スーパービジョンで扱った事例の理解や支援に必要な知識・技能を有している。特に在宅支援を受けている子ども・家族に関して十分な理解がある：30%

(思考・判断・表現／思考・技能・実践)

事例のフォーミュレーション(力動的アセスメント)が適切にできる：20%

スーパーバイズの方法や技法を理解し、実践できる：20%

(態度・志向性)

事例の力動的な理解に基づいた適切なスーパービジョンを提供できることを志向している：30%

### 【必携図書】

事例の特徴に応じて、その理解や支援に資する学術文献等を適宜指示する。

### 【参考図書】

福山・渡部・小野・浅野(共編) 保健・医療・福祉専門職のためのスーパービジョン：支援の質を高める手法の理論と実際 ミネルヴァ書房 2018

### 【履修上の注意】

特になし

### 【学生へのメッセージ】

本演習では教員によるスーパービジョンによって、在宅支援を受けている子どもやその家族に対する理解や支援のあり方を検討します。事例に関するスーパービジョンは、臨床的・ソーシャルワークの技能を修得するための非常に重要な機会となりますので、積極的に取り組んでください。

科目名	子ども家庭福祉実践演習Ⅱ（市町村、在宅）				
担当者	西澤哲・相澤仁・奥山眞紀子				
開講期	後期	履修年次	1年次	必修選択別	選択
単位数	1単位	時間数	30時間	授業形式	演習
カテゴリ	実習・演習科目（演習科目）				

### 【科目の目的】

対人援助の人材養成に関する方法論の一つであるスーパービジョンを用いて、実践能力の向上や支援している利用者のニーズ充足を図りつつ、学生の実践への支援を行う。

具体的には、週末1日2時間、週1日、8週の16時間以上実施し、子ども家庭福祉実習Ⅰ（市町村・在宅）において扱った事例について、事例検討レポートにまとめ、発表した上で、大学教員とのディスカッションを通してスーパーバイズを受け、翌週の実習へ向かう循環漸進型の演習を行う。

以下を参考に、自身の課題につながる指導が可能な担当を教員と相談の上、決定する。

西澤哲：子どもや親などの心理的課題に関わる領域を主として担当する。

相澤仁：施設養育、社会的養護、反社会的行動を顕著に示すようになった子ども、ソーシャルワークの問題等を主として担当する。

奥山眞紀子：子どもの医療的課題、トラウマ理解や援助に関わる領域を主として担当する。

### 【到達目標】

（知識・理解）

- ・自らの実践における課題を通して、身に着なければならぬ専門性を言語化できる。

（思考・判断・表現／思考・技能・実践）

- ・実践のなかで技能の向上を図り、その成長を言語化できる。

（態度・志向性）

- ・実践に対し洞察を深めようとする態度を維持し続けられる。

### 【授業内容】

第1回 オリエンテーション：授業の目的と方法

第2回 自らの実践経験の振り返りと身につけるべき専門性の明確化①

第3回 自らの実践経験の振り返りと身につけるべき専門性の明確化②

第4回 実習計画書の作成①

第5回 実習計画書の作成②

第6回 実習計画書の作成③

第7回 実習中のスーパービジョン①

第8回 実習中のスーパービジョン②

第9回 実習中のスーパービジョン③

第10回 実習中のスーパービジョン

第11回 実習後の振り返り①

第12回 実習後の振り返り②

第13回 実習後の振り返り③

第14回 実習報告書の作成①

第15回 実習報告書の作成②

### 【授業外の学修】

授業時間外に、実習指導教員から指示された課題に取り組む。

### 【教育方法】

担当教員との対面形式によるスーパービジョンを受ける。

担当教員の指示により参考文献を精読した上で議論する。

**【評価方法】**

(知識・理解)

スーパービジョンで扱った事例の理解や支援に必要な知識・技能を有している。特にファミリーソーシャルワークやコミュニティワークなど、在宅支援に関して十分な理解がある：30%

(思考・判断・表現／思考・技能・実践)

事例のフォーミュレーション(力動的アセスメント)が適切にできる：40%

(態度・志向性)

子どもや家族に対して常に理解的態度を持ち、ソーシャルワークの価値観に従った支援の展開を試みようとする：30%

**【必携図書】**

事例の特徴に応じて、その理解や支援に資する学術文献等を適宜指示する。

**【参考図書】**

福山・渡部・小野・浅野(共編) 保健・医療・福祉専門職のためのスーパービジョン：支援の質を高める手法の理論と実際 ミネルヴァ書房 2018

**【履修上の注意】**

特になし。

**【学生へのメッセージ】**

本演習では教員によるスーパービジョンによって、在宅支援を受けている子どもやその家族に対する理解や支援のあり方を検討します。事例に関するスーパービジョンは、ファミリーソーシャルワークやコミュニティワークの技能を修得するための非常に重要な機会となりますので、積極的に取り組んでください。

科目名	子ども家庭福祉実践演習Ⅲ(児童相談所)				
担当者	西澤 哲・相澤 仁・奥山眞紀子				
開講期	前期	履修年次	1年次	必修選択別	選択
単位数	1単位	時間数	30時間	授業形式	演習
カテゴリ	実習・演習科目(演習科目)				

## 【科目の目的】

対人援助の人材養成に関する方法論の一つであるスーパービジョンによって、受講生の実践技能の向上を図る。また、スーパーバイザーとしての経験を基礎として、教員から指導や講義を受けることで、スーパービジョンの方法及び技法を修得する。

子ども家庭福祉実習Ⅲ(児童相談所)において扱った事例について、事例検討レポートにまとめて報告した上で、大学教員とのディスカッションを通してスーパーバイズを受け、翌週の実習へ向かう循環漸進型の演習を行う。さらに、本演習においては、受講生間、もしくは受講生と教員によるスーパービジョンのロールプレイを行い、受講生はスーパーバイザーとして活動するための基礎を体験的に学修する。

この演習によって学生はスーパーバイズの方法論及び技法を学修し、スーパーバイズの提供のための基礎を修得する。

以下を参考に、自身の課題につながる指導が可能な担当を教員と相談の上、決定する。

西澤哲：子どもや親などの心理的課題に関わる領域を主として担当する。

相澤仁：施設養育、社会的養護、反社会的行動を顕著に示すようになった子ども、ソーシャルワークの問題等を主として担当する。

奥山眞紀子：子どもの医療的課題、トラウマ理解や援助に関わる領域を主として担当する。

## 【到達目標】

(知識・理解)

- ・自らの実践における課題を通して、身に着なければならぬ専門性を言語化できる。

(思考・判断・表現/思考・技能・実践)

- ・実践のなかで技能の向上を図り、改善点・向上点を言語化できる。
- ・スーパービジョンを受けることを通して、スーパービジョンの方法論及び技術を修得する。
- ・学生同士、又教員と学生とのロールプレイにより、スーパーバイザーとして活動するための基礎的な実践力を修得する。

(態度・志向性)

- ・適切なスーパーバイズの提供が可能になるよう学修に取り組む。

## 【授業内容】

- 第1回 オリエンテーション：授業の目的と方法
- 第2回 事例の分析とアセスメント①
- 第3回 事例の分析とアセスメント②
- 第4回 実習中のスーパービジョン①
- 第5回 実習中のスーパービジョン②
- 第6回 実習中のスーパービジョン③
- 第7回 実習中のスーパービジョン④
- 第8回 実習中のスーパービジョン⑤
- 第9回 実習中のスーパービジョン⑥
- 第10回 実習中のスーパービジョン⑦
- 第11回 実習中のスーパービジョン⑧
- 第12回 実習中のスーパービジョン⑨
- 第13回 スーパーバイザーによるスーパーバイズの技法の解説
- 第14回 ロールプレイと教員によるフィードバック

## 第15回 事例報告書の作成

### 【授業外の学修】

前回の実習に関するレポートを作成する。

### 【教育方法】

担当教員との対面形式によるスーパービジョンを受けることで、スーパーバイズの基礎を学ぶ。また、ロールプレイによって、スーパーバイザーの活動を体験的に学ぶ。

参考文献を購読し、事例の理解や支援の方法について担当教員と議論する。

### 【評価方法】

(知識・理解)

スーパービジョンで扱った事例の理解や支援に必要な知識・技能を有している。特に児童相談所が支援の対象としている子どもやその家族に関して十分な理解がある：30%

(思考・判断・表現／思考・技能・実践)

事例のフォーミュレーション(力動的アセスメント)が適切にできる：20%

スーパーバイズの方法や技法を理解し、実践できる：20%

(態度・志向性)

事例の力動的な理解に基づいた適切なスーパービジョンを提供できることを志向している：30%

### 【必携図書】

事例の特徴に応じて、その理解や支援に資する学術文献等を適宜指示する。

### 【参考図書】

福山・渡部・小野・浅野(共編) 保健・医療・福祉専門職のためのスーパービジョン：支援の質を高める手法の理論と実際 ミネルヴァ書房 2018

### 【履修上の注意】

特になし

### 【学生へのメッセージ】

本演習では教員によるスーパービジョンによって、児童相談所が支援の対象としている子どもやその家族に対する理解や支援のあり方を検討します。事例に関するスーパービジョンは、臨床的・ソーシャルワークの技能を修得するための非常に重要な機会となりますので、積極的に取り組んでください。

科目名	子ども家庭福祉実践演習Ⅲ（児童相談所）				
担当者	西澤哲・相澤仁・奥山眞紀子				
開講期	前期	履修年次	2年次	必修選択別	選択
単位数	1単位	時間数	30時間	授業形式	演習
カテゴリ	実習・演習科目（演習科目）				

### 【科目の目的】

対人援助の人材養成に関する方法論の一つであるスーパービジョンを用いて、実践能力の向上や支援している利用者のニーズ充足を図りつつ、学生の実践への支援を行う。

具体的には、週末1日2時間、週1日、8週の16時間以上実施し、子ども家庭福祉実習Ⅰ（児童相談所）において、得られた事例について、事例検討レポートにまとめ、発表した上で、大学教員とのディスカッションを通してスーパーバイズを受け、翌週の実習へ向かう循環漸進型の演習を行う。

以下を参考に、自身の課題につながる指導が可能な担当を教員と相談の上、決定する。

西澤哲：子どもや親などの心理的課題に関わる領域を主として担当する。

相澤仁：施設養育、社会的養護、反社会的行動を顕著に示すようになった子ども、ソーシャルワークの問題等を主として担当する。

奥山眞紀子：子どもの医療的課題、トラウマ理解や援助に関わる領域を主として担当する。

### 【到達目標】

（知識・理解）

- ・自らの実践における課題を通して、身に着なければならぬ専門性を言語化できる。

（思考・判断・表現／思考・技能・実践）

- ・実践のなかで技能の向上を図り、その成長を言語化できる。

（態度・志向性）

- ・実践に対し洞察を深めようとする態度を維持し続けられる。

### 【授業内容】

第1回 オリエンテーション：授業の目的と方法

第2回 自らの実践経験の振り返りと身につけるべき専門性の明確化①

第3回 自らの実践経験の振り返りと身につけるべき専門性の明確化②

第4回 実習計画書の作成①

第5回 実習計画書の作成②

第6回 実習計画書の作成③

第7回 実習中のスーパービジョン①

第8回 実習中のスーパービジョン②

第9回 実習中のスーパービジョン③

第10回 実習中のスーパービジョン

第11回 実習後の振り返り①

第12回 実習後の振り返り②

第13回 実習後の振り返り③

第14回 実習報告書の作成①

第15回 実習報告書の作成②

### 【授業外の学修】

授業時間外に、実習指導教員から指示された課題に取り組む。

### 【教育方法】

担当教員との対面形式によるスーパービジョンを受ける。

担当教員の指示により参考文献を精読した上で議論する。

### 【評価方法】

(知識・理解)

スーパービジョンで扱った事例の理解や支援に必要な知識・技能を有している。特に児童相談所が関わるような中程度から重度の事例に対する支援及び介入に関して十分な理解がある：30%

(思考・判断・表現／思考・技能・実践)

事例のフォーミュレーション(力動的アセスメント)が適切にできる。また、一時保護所でのケアワークが適切に行える：40%

(態度・志向性)

子どもや家族に対して常に理解的態度を持ち、ソーシャルワークの価値観に従った支援の展開を試みようとする。また、必要に応じて、現行の法制度に対する批判的検討ができる：30%

### 【必携図書】

事例の特徴に応じて、その理解や支援に資する学術文献等を適宜指示する。

### 【参考図書】

福山・渡部・小野・浅野(共編) 保健・医療・福祉専門職のためのスーパービジョン：支援の質を高める手法の理論と実際 ミネルヴァ書房 2018

### 【履修上の注意】

特になし。

### 【学生へのメッセージ】

本演習では教員によるスーパービジョンによって、児童相談所が関わる子どもやその家族に対する理解や支援のあり方を検討します。児童相談所が行うケースワーク及びソーシャルワークは、虐待を受けた子どもやその家族に対する支援の要となるものです。そのため、本演習のスーパービジョンは、そうした子どもや家族へのケースワーク・ソーシャルワークの知識・技能を修得するための非常に重要な機会となりますので、積極的に取り組んでください。

科目名	スーパービジョン特講				
担当者	山田勝美・相澤仁				
開講期	前期	履修年次	1年次	必修選択別	選択
単位数	2単位	時間数	30時間	授業形式	講義
カテゴリ					

## 【科目の目的】

本講義では、職場や機関のスーパーバイザーとして機能していくための知識、特に、スーパービジョンの構造と内容について十分に教授できるようにする。基本的には、KADUSHINのスーパービジョンに学びつつ、必要に応じて他の文献にもあたりながら、理解を深められるよう展開していく。

特に、実践において展開しうることが肝要であると考えられるため、実践における課題等、特に、学生のスーパーバイザー及びスーパービジョン経験をふまえ、その実践を評価検討し、効果的、実践的なスーパービジョンを学べるよう授業を展開していく。具体的には、スーパービジョンの歴史、概念、構造を概説し、管理的スーパービジョン、教育的スーパービジョン、支持的スーパービジョンについて理解を深め、自らの実践現場における、スーパービジョンの各機能の現状や課題を評価・検討する。そのうえで、実践現場にスーパービジョンシステムを具体的に位置づけるための方策について明確化できるようにする。

## 【到達目標】

(知識・理解)

・スーパービジョンとは何か、また、スーパービジョンの展開過程におけるスーパーバイザーの役割を説明できる。

(思考・判断・表現／思考・技能・実践)

・スーパーバイザー主体の支援を実践上において実施できる。

(態度・志向性)

・スーパーバイザーのもつ権威を自覚し、それを有効に活用できる。

## 【授業内容】

第1回 オリエンテーション (相澤・山田)

第2回 スーパービジョンの歴史 (相澤)

第3回 スーパービジョンの概念 (相澤)

第4回 スーパービジョンの構造 (相澤)

第5回 スーパービジョンの種類 (相澤)

第6回 スーパービジョンの評価 (相澤)

第7回 スーパービジョンにおける管理的機能 (相澤)

第8回 現場実践における管理的スーパービジョンの評価と課題の検討 (山田)

第9回 スーパービジョンにおける教育的機能 (相澤)

第10回 現場実践における教育的スーパービジョンの評価と課題の検討 (山田)

第11回 スーパービジョンにおける支持的スーパービジョン (相澤)

第12回 現場実践における支持的スーパービジョンの評価と課題の検討 (山田)

第13回 現場実践にスーパービジョンシステムを構築するために～求められる視点とは・その1～ (相澤・山田) : これまでの学習成果をふまえ、自分の所属する機関・施設にいかにしてスーパービジョンシステムを導入するかを検討する。そのために、担当教員2名からのコメントを加える。

第14回 現場実践にスーパービジョンシステムを構築するために～求められる視点とは・その2～ (相澤・山田) : これまでの学習成果をふまえ、自分の所属する機関・施設にいかにしてスーパービジョンシステムを導入するかを検討する。そのために、担当教員2名からのコメントを加える。

第15回 まとめ (相澤・山田) : 学生のこれまでの学修の成果を報告してもらい、討議をしながら学びの統合を図る。

## 【授業外の学修】

今回の講義で扱う部分について精読して授業に臨むこと。また、学生各自のスーパービジョン体験をまとめて頂く予定である。

**【教育方法】**

講義方式だけではなく、少人数であることを活かし、学生自身の考えや意見等を自由に発言できる機会を設け、実践と関連させて思考できるように展開する。

**【評価方法】**

(知識・理解)

試験 レポート 50%

(思考・判断・表現／思考・技能・実践)

試験・レポート 30%

(態度・志向性)

授業外の課題への取り組み状況及び授業時の討議内容 20%

**【必携図書】**

・アルフレッド・カデューシン、ダニエル・ハークネス（監修・福山和女 監訳 萬歳芙美子/萩野ひろみ）（2016）『スーパービジョン・ソーシャルワーク』中央法規出版

**【参考図書】**

・適宜紹介する。

**【履修上の注意】**

常に内省的な態度を持ち、授業に臨んで頂きたい。

**【学生へのメッセージ】**

自明ではありますが、専門職養成においてスーパービジョンは必須であります。卒業後、リーダーになっていただく皆さんにとって、よりよきスーパーバイザーになるためには何が求められているのか、どういう知識やスキルが必要なのか、自らを振り返りながら、理解を深めて行っていただきたいと思います。

# 【別紙資料4②】

科目名	スーパービジョン特講				
担当者	山田 勝美・相澤仁				
開講期	前期	履修年次	1年次	必修選択別	必修
単位数	2単位	時間数	30時間	授業形式	講義
カテゴリ	基礎科目				

## 【科目の目的】

本講義では、職場や機関のスーパーバイザーとして機能していくための知識、特に、スーパービジョンの構造と内容について十分に教授できるようにする。基本的には、KADUSHINのスーパービジョンに学びつつ、必要に応じて他の文献にもあたりながら、理解を深められるよう展開していく。

特に、実践において展開しうることが肝要であると考えられるため、実践における課題等、特に、学生のスーパーバイザー及びスーパービジョン経験をふまえ、より効果的、実践的なスーパービジョンを学べるよう講義を展開していきたいと考えている。

## 【到達目標】

(知識・理解)

- ・スーパービジョンとは何か、また、スーパービジョンの展開過程におけるスーパーバイザーの役割を説明できる。

(思考・判断・表現／思考・技能・実践)

- ・スーパーバイザー主体の支援を実践上において実施できる

(態度・志向性)

- ・スーパーバイザーのもつ権威を自覚し、それを有効に活用できる

## 【授業内容】

第1回 オリエンテーション (相澤・山田)

第2回 スーパービジョンの歴史 (相澤)

第3回 スーパービジョンの概念 (相澤)

第4回 スーパービジョンの構造 (相澤)

第5回 管理的スーパービジョンとは何か (相澤)

第6回 管理的スーパービジョンの実践上の課題 (山田)

第7回 教育的スーパービジョンとは何か (相澤)

第8回 教育的スーパービジョンの実践上の課題 (山田)

第9回 支持的スーパービジョンとは何か (相澤)

第10回 支持的スーパービジョンの実践上の課題 (山田)

第11回 スーパービジョンの種類 (相澤)

第12回 スーパービジョンの評価 (相澤)

第13回 スーパービジョンの課題 (山田)

第14回 現場にスーパービジョンシステムを構築するために～求められる視点とは～ (相澤・山田) : これまでの学習成果をふまえ、自分の所属する機関・施設にいかにしてスーパービジョンシステムを導入するかを検討する。そのために、担当教員2名からのコメントを加える。

第15回 まとめ (相澤・山田) : 学生のこれまでの学修の成果を報告してもらい、討議をしながら学びの統合を図る。

## 【授業外の学修】

今回の講義で扱う部分について精読して授業に臨むこと。また、学生各自のスーパービジョン体験をまとめて頂く予定である。

## 【教育方法】

講義方式だけではなく、少人数であることを活かし、学生自身の考えや意見等を自由に発言できる機会を設け、実践と関連させて思考できるように展開する。

## 【評価方法】

(知識・理解)

試験 レポート 50%

(思考・判断・表現／思考・技能・実践)

試験・レポート 30%

(態度・志向性)

授業外の課題への取り組み状況及び授業時の討議内容 20%

**【必携図書】**

- ・ アルフレッド・カデューシン、ダニエル・ハークネス (監修・福山和女 監訳 萬歳芙美子/萩野ひろみ) (2016) 『スーパービジョン・ソーシャルワーク』中央法規出版

**【参考図書】**

- ・ 適宜紹介する。

**【履修上の注意】**

常に内省的な態度を持ち、授業に臨んで頂きたい。

**【学生へのメッセージ】**

自明ではありますが、専門職養成においてスーパービジョンは必須であります。卒業後、リーダーになっていただく皆さんにとって、よりよきスーパーバイザーになるためには何が求められているのか、どういう知識やスキルが必要なのか、自らを振り返りながら、理解を深めて行っていただきたいと思います。

【資料2】山梨県立大学大学院人間福祉学研究科 人間福祉学専攻 時間割・担当者・教室配置

【1年前期】

時限	時間	月	火	水	木	金	土	日	
1	9:00~10:30						子ども家庭福祉実習Ⅰ（施設） （担当:山田、林） （教室:C201,実習施設）		
2	10:40~12:10								
3	13:10~14:40								
4	14:50~16:20								
5	16:30~18:00								
6	18:10~19:40	子ども家庭福祉実践演習Ⅰ（施設） （担当:西澤、相澤、奥山） （教室:C201）	人間福祉学特講 （担当:山田、橋爪、石垣、池田、里見） （教室:C102）	人間福祉学研究方法 （担当:高木、太田、橋爪） （教室:C102,A503）	子ども虐待臨床特講 （担当:西澤） （教室:C103）	アタッチメント理論の臨床応用 （担当:奥山） （教室:C103）	スーパービジョン特講 （担当:山田、相澤） （教室:C201）	虐待傾向を示す親の心理・社会的特徴 （担当:西澤） （教室:C201）	
7	19:50~21:20								

※6・7限の授業は続けて行い、前期前半、前期後半で科目が分かれる。

※「子ども家庭福祉実習Ⅰ（施設）」は1日7時間、週1日（原則、土曜）の実習を12週間、実習事前事後指導を含め、全体で90時間実施する。なお、曜日等の詳細は実習先と日程調整する。

【1年後期】

時限	時間	月	火	水	木	金	土	
1	9:00~10:30		子ども家庭福祉実習Ⅱ (市町村、在宅) (担当:山田、林) (教室:C201,実習施設)				人間福祉実践演習Ⅰ (担当:柳田、中島、伊藤、 青柳、大塚、高木、池田、 高野、鳥居、古屋、奥谷、 里見、太田) (教室: C102,C103,C201,研究 室)	
2	10:40~12:10							
3	13:10~14:40						臨床発達心理学特講(担当: 太田)(教室:C102)	
							地域福祉論特講(担当:高 木)(教室:C103)	
4	14:50~16:20						人間福祉学特別研究Ⅰ (担当:西澤、相澤、奥山、 柳田、中島、高野、山田、 池田、大塚、青柳、里見、 鳥居、古屋、高木、石垣、 太田、橋爪) (教 室:C102,C103,C201,研 究室)	
5	16:30~18:00						子どものウェルビーイング 特講 (担当:高野、鳥居) (教室:C102)	
6	18:10~19:40	子ども家庭福祉実践演習Ⅱ (市町村、在宅) (担当:西澤、相澤、奥山) (教室:C201)			ソーシャル ワークの価値 と理論 (担当:柳 田) (教室: C102)	地域福祉マネ ジメント実践 方法論特講 (担当:中 島、大塚、青 柳) (教室: C102)	ソーシャルペ ダゴジー (担当:西 澤) (教室: C201)	発達障害支援 特講 (担当:里 見) (教室: C201)
7	19:50~21:20							

※6・7限の授業は続けて行い、後期前半、後期後半で科目が分かれる。

※科目は、1年次に履修しなかった学生は2年次に受講が可能である。

※授業時間は科目担当教員と学生間での調整を可能とする。

※「子ども家庭福祉実習Ⅱ(市町村、在宅)」は1日7時間、週1日の実習を12週間、実習事前事後指導を含め、全体で90時間実施する。なお、曜日等の詳細は実習先と日程調整する。

【2年前期】

時限	時間	月	火	水	木	金	土		
1	9:00~10:30	子ども家庭福祉実習Ⅲ (児童相談所) (担当:山田、林) (教室:C201,実習施設)					人間福祉実践演習Ⅱ (担当:柳田、中島、伊藤、 青柳、大塚、高木、池田、 高野、鳥居、古屋、奥谷、 里見、太田) (教室:C102,C103, 研究室)		
2	10:40~12:10								
3	13:10~14:40						ファミリーソーシャルワーク 特講(担当:山田) (教室:C102)		
4	14:50~16:20						子どもの表現特講 (担当:高野、古屋、奥谷) (教室:C103)		
5	16:30~18:00						人間福祉学特別研究Ⅱ (担当:西澤、相澤、奥山、 柳田、中島、高野、山田、 池田、大塚、青柳、里見、 鳥居、古屋、高木、石垣、 太田、橋爪) (教 室:C102,C103,C201, 研究室)		
6	18:10~19:40		子ども家庭福祉実践演習Ⅲ (児童相談所) (担当:西澤、相澤、奥山) (教室:C201)		ソーシャル ワークの実践 と分析 (担当:伊 藤) (教室: C103)	多文化共生教 育・保育特講 (担当:池 田) (教室: C103)	子ども虐待と アドボカシー (担当:相 澤) (教室: C102)	小児精神医学 特講 (担当:奥 山) (教室: C102)	
7	19:50~21:20								

※6・7限の授業は続けて行い、後期前半、後期後半で科目が分かれる。

※1年次未履修科目は2年次に受講可能とする。

※授業時間は科目担当教員と学生間での調整を可能とする。

※「子ども家庭福祉実習Ⅲ(児童相談所)」は1日7時間、週1日の実習を12週間、実習事前事後指導を含め、全体で90時間実施する。なお、曜日等の詳細は実習先と日程調整する。

【2年後期】

時限	時間	月	火	水	木	金	土
1	9:00~10:30						
2	10:40~12:10						
3	13:10~14:40						人間福祉学課題研究 (担当:西澤、相澤、奥山、 柳田、中島、高野、山田、 池田、大塚、青柳、里見、 鳥居、古屋、高木、石垣、 太田、橋爪) (教室:C101,C102, C103,C201,各研究室)
4	14:50~16:20						人間福祉学特別研究Ⅲ (担当:西澤、相澤、奥山、 柳田、中島、高野、山田、 池田、大塚、青柳、里見、 鳥居、古屋、高木、石垣、 太田、橋爪) (教室:C101,C102, C103,C201,各研究室)
5	16:30~18:00						
6	18:10~19:40						
7	19:50~21:20						

※1年次未履修科目は2年次に受講可能とする。

※授業時間は科目担当教員と学生間での調整を可能とする。

【資料2-1】履修モデル① 虐待対応のスペシャリスト 時間割・担当者・教室の配置

- ・このモデルは、子ども家庭福祉分野において、虐待・ネグレクトが子どもに与える心理的・精神医学的影響及び虐待を生じる親・家族の心理社会的特徴に関する専門的知識を有し、虐待相談業務や子どもへの治療的養育、心理的ケアを担当できる高度な技能を有する人材の育成を想定している。
- ・選択科目については、学生の関心、専門性、志向にあわせて履修することが想定される。
- ・1年次未履修の科目は2年次に履修可能とし、社会人等による履修の場合は、選択科目等を2年次に分散させて履修することも想定される。

【1年前期】		■：履修する科目								
時限	時間	月	火	水	木	金	土	日		
1	9:00~10:30						子ども家庭福祉実習Ⅰ（施設） （担当:山田、林） （教室:C201,実習施設）			
2	10:40~12:10									
3	13:10~14:40									
4	14:50~16:20									
5	16:30~18:00									
6	18:10~19:40	子ども家庭福祉実践演習Ⅰ（施設） （担当:西澤、相澤、奥山） （教室:C201）	人間福祉学特講 （担当:山田、橋爪、石垣、池田、里見） （教室:C102）	人間福祉学研究方法 （担当:高木、太田、橋爪） （教室:C102）	子ども虐待臨床特講 （担当:西澤） （教室:C103）	アタッチメント理論の臨床応用 （担当:奥山） （教室:C103）	スーパービジョン特講 （担当:山田、相澤） （教室:C201）	虐待傾向を示す親の心理・社会的特徴 （担当:西澤） （教室:C201）		
7	19:50~21:20									

※6・7限の授業は続けて行い、前期前半、前期後半で科目が分かれる。

※1年次に履修しなかった科目は2年次以降に受講が可能である。

※「子ども家庭福祉実習Ⅰ（施設）」は1日7時間、週1日（原則、土曜）の実習を12週間、実習事前事後指導を含め、全体で90時間実施する。なお、曜日等の詳細は実習先と日程調整する。

【1年後期】

■：履修する科目

時限	時間	月	火	水	木	金	土		
1	9:00~10:30	子ども家庭福祉実習Ⅱ (市町村、在宅) (担当:山田、林) (教室:C201,実習施設)					人間福祉実践演習Ⅰ (担当:柳田、中島、伊藤、青柳、大塚、高木、池田、高野、鳥居、古屋、奥谷、里見、太田) (教室:102,C103,C201,研究室)		
2	10:40~12:10						臨床発達心理学特講(担当:太田)(教室:C102)		
3	13:10~14:40						地域福祉論特講(担当:高木)(教室:C103)		
4	14:50~16:20						人間福祉学特別研究Ⅰ (担当:西澤、相澤、奥山、柳田、中島、高野、山田、池田、大塚、青柳、里見、太田)		
5	16:30~18:00						子どものウェルビーイング特講 (担当:高野、鳥居) (教室:C102)		
6	18:10~19:40		子ども家庭福祉実践演習Ⅱ (市町村、在宅) (担当:西澤、相澤、奥山) (教室:C201)			ソーシャルワークの価値と理論 (担当:柳田) (教室:C103)	地域福祉マネジメント実践方法論特講 (担当:中島、大塚、青柳) (教室:C103)	ソーシャルペダゴジー (担当:西澤) (教室:C201)	発達障害支援特講 (担当:里見) (教室:C201)
7	19:50~21:20								

※6・7限の授業は続けて行い、後期前半、後期後半で科目が分かれる。

※1年次に履修しなかった科目は2年次以降に受講が可能である。

※授業時間は科目担当教員と学生間での調整を可能とする。

※「子ども家庭福祉実習Ⅱ(市町村、在宅)」は1日7時間、週1日の実習を12週間、実習事前事後指導を含め、全体で90時間実施する。なお、曜日等の詳細は実習先と日程調整する。

【2年前期】

■：履修する科目

時限	時間	月	火	水	木	金	土	
1	9:00~10:30	子ども家庭福祉実習Ⅲ (児童相談所) (担当:山田、林) (教室:C201,実習施設)					人間福祉実践演習Ⅱ (担当:柳田、中島、伊藤、青柳、大塚、高木、池田、高野、鳥居、古屋、奥谷、里見、太田) (教室:C102,C103,研究室)	
2	10:40~12:10							
3	13:10~14:40						ファミリーソーシャルワーク特講(担当:山田) (教室:C102)	
4	14:50~16:20						子どもの表現特講 (担当:高野、古屋、奥谷) (教室:C103)	
5	16:30~18:00						人間福祉学特別研究Ⅱ (担当:西澤、相澤、奥山、柳田、中島、高野、山田、池田、大塚、青柳、里見、鳥居、太田、高木、伊藤)	
6	18:10~19:40		子ども家庭福祉実践演習Ⅲ (児童相談所) (担当:西澤、相澤、奥山) (教室:C201)		ソーシャルワークの実践と分析 (担当:伊藤) (教室:C102)	多文化共生教育・保育特講 (担当:池田) (教室:C103)	子ども虐待とアドボカシー (担当:相澤) (教室:C102)	小児精神医学特講 (担当:奥山) (教室:C102)
7	19:50~21:20						福祉行財政学特講 (担当:石垣) (教室:C103)	

※6・7限の授業は続けて行い、後期前半、後期後半で科目が分かれる。

※授業時間は科目担当教員と学生間での調整を可能とする。

※「子ども家庭福祉実習Ⅲ（児童相談所）」は1日7時間、週1日の実習を12週間、実習事前事後指導を含め、全体で90時間実施する。なお、曜日等の詳細は実習先と日程調整する。

【2年後期】

■：履修する科目

時限	時間	月	火	水	木	金	土
1	9:00~10:30						
2	10:40~12:10						
3	13:10~14:40						人間福祉学課題研究 (担当:西澤、相澤、奥山、 柳田、中島、高野、山田、 池田、大塚、青柳、里見、 鳥居、古屋、高木、石垣、 太田、橋爪) (教 室:C101,C102,C103,C2 01,各研究室)
4	14:50~16:20						人間福祉学特別研究Ⅲ (担当:西澤、相澤、奥山、 柳田、中島、高野、山田、 池田、大塚、青柳、里見、 鳥居、古屋、高木、石垣、 太田、橋爪)
5	16:30~18:00						
6	18:10~19:40						
7	19:50~21:20						

※授業時間は科目担当教員と学生間での調整を可能とする。

※1年次に履修しなかった科目は2年次以降に受講が可能である。

【資料2-2】履修モデル② 保育現場での虐待早期発見、子どもケアのスペシャリスト 時間割・担当者・教室の配置

- ・このモデルは、子どもの保育・幼児教育の分野において、虐待・ネグレクトを受けた子どもや虐待傾向を有する親・家族の心理社会的特徴に関する専門的知識を有し、保育所・認定こども園等を基盤とした子ども及び家族への支援を提供できる高度な技能と実践力を有する人材の育成を想定している。
- ・選択科目については、学生の関心、専門性、志向にあわせて履修することが想定される。
- ・1年次未履修の科目は2年次に履修可能とし、社会人等による履修の場合は、選択科目等を2年次に分散させて履修することも想定される。

【1年前期】		■：履修する科目							
時限	時間	月	火	水	木	金	土	日	
1	9:00~10:30						子ども家庭福祉実習Ⅰ（施設） （担当:山田、林） （教室:C201,実習施設）		
2	10:40~12:10								
3	13:10~14:40								
4	14:50~16:20								
5	16:30~18:00								
6	18:10~19:40	子ども家庭福祉実践演習Ⅰ（施設） （担当:西澤、相澤、奥山） （教室:C201）	人間福祉学特講 （担当:山田、橋爪、石垣、池田、里見） （教室:C102）	人間福祉学研究方法 （担当:高木、太田、橋爪） （教室:C102）	子ども虐待臨床特講 （担当:西澤） （教室:C103）	アタッチメント理論の臨床応用 （担当:奥山） （教室:C103）	スーパービジョン特講 （担当:山田、相澤） （教室:C201）	虐待傾向を示す親の心理・社会的特徴 （担当:西澤） （教室:C201）	
7	19:50~21:20								

※6・7限の授業は続けて行い、前期前半、前期後半で科目が分かれる。

※1年次に履修しなかった科目は2年次以降に受講が可能である。

※「子ども家庭福祉実習Ⅰ（施設）」は1日7時間、週1日（原則、土曜）の実習を12週間、実習事前事後指導を含め、全体で90時間実施する。なお、曜日等の詳細は実習先と日程調整する。

【1年後期】

■：履修する科目

時限	時間	月	火	水	木	金	土		
1	9:00~10:30	子ども家庭福祉実習Ⅱ (市町村、在宅) (担当:山田、林) (教室:C201,実習施設)					人間福祉実践演習Ⅰ (担当:柳田、中島、伊藤、青柳、大塚、高木、池田、高野、鳥居、古屋、奥谷、里見、太田) (教室:C102,C103,C201,研究室)		
2	10:40~12:10								
3	13:10~14:40						臨床発達心理学特講(担当:太田)(教室:C102) 地域福祉論特講(担当:高木)(教室:C103)		
4	14:50~16:20						人間福祉学特別研究Ⅰ (担当:西澤、相澤、奥山、柳田、中島、高野、山田、池田、大塚、青柳、里見、鳥居、古屋、高木、石垣、太田、橋爪)(教室:C102,C103,C201,研究室)		
5	16:30~18:00						子どものウェルビーイング特講 (担当:高野、鳥居) (教室:C102)		
6	18:10~19:40		子ども家庭福祉実践演習Ⅱ (市町村、在宅) (担当:西澤、相澤、奥山) (教室:C201)		ソーシャルワークの価値と理論 (担当:柳田) (教室:C102)	地域福祉マネジメント実践方法論特講 (担当:中島、大塚、青柳) (教室:C102)	ソーシャルペダゴジー (担当:西澤) (教室:C201)	発達障害支援特講 (担当:里見) (教室:C201)	
7	19:50~21:20								

※6・7限の授業は続けて行い、後期前半、後期後半で科目が分かれる。

※1年次に履修しなかった科目は2年次以降に受講が可能である。

※選択科目の授業時間は科目担当教員と学生間での調整を可能とする。

※「子ども家庭福祉実習Ⅱ(市町村、在宅)」は1日7時間、週1日の実習を12週間、実習事前事後指導を含め、全体で90時間実施する。なお、曜日等の詳細は実習先と日程調整する。

【2年前期】

■：履修する科目

時限	時間	月	火	水	木	金	土	
1	9:00~10:30	子ども家庭福祉実習Ⅲ (児童相談所) (担当:山田、林) (教室:C201,実習施設)					人間福祉実践演習Ⅱ (担当:柳田、中島、伊藤、青柳、大塚、高木、池田、高野、鳥居、古屋、奥谷、里見、太田) (教室:C102,C103,研究室)	
2	10:40~12:10							
3	13:10~14:40						ファミリーソーシャルワーク特講(担当:山田) (教室:C102)	
4	14:50~16:20						子どもの表現特講 (担当:高野、古屋、奥谷) (教室:C103)	
5	16:30~18:00						人間福祉学特別研究Ⅱ (担当:西澤、相澤、奥山、柳田、中島、高野、山田、池田、大塚、青柳、里見、鳥居、古屋、高木、石垣、太田、橋爪) (教室:C102,C103,C201,研究室)	
6	18:10~19:40		子ども家庭福祉実践演習Ⅲ (児童相談所) (担当:西澤、相澤、奥山) (教室:C201)		ソーシャルワークの実践と分析 (担当:伊藤) (教室:C103)	多文化共生教育・保育特講 (担当:池田) (教室:C103)	子ども虐待とアドボカシー (担当:相澤) (教室:C102)	小児精神医学特講 (担当:奥山) (教室:C102)
7	19:50~21:20						福祉行財政学特講 (担当:石垣) (教室:C103)	

※6・7限の授業は続けて行い、後期前半、後期後半で科目が分かれる。

※1年次に履修しなかった科目は2年次以降に受講が可能である。

※選択科目の授業時間は科目担当教員と学生間での調整を可能とする。

※「子ども家庭福祉実習Ⅲ(児童相談所)」は1日7時間、週1日の実習を12週間、実習事前事後指導を含め、全体で90時間実施する。なお、曜日等の詳細は実習先と日程調整する。

【2年後期】

■：履修する科目

時限	時間	月	火	水	木	金	土
1	9:00~10:30						
2	10:40~12:10						
3	13:10~14:40						人間福祉学課題研究 （担当:西澤、相澤、奥山、 柳田、中島、高野、山田、 池田、大塚、青柳、里見、 鳥居、古屋、高木、石垣、 太田、橋爪） （教室:C101,C102, C103,C201,各研究 室）
4	14:50~16:20						人間福祉学特別研究Ⅲ （担当:西澤、相澤、奥山、 柳田、中島、高野、山田、 池田、大塚、青柳、里見、 鳥居、古屋、高木、石垣、 太田、橋爪） （教室:C101,C102, C103,C201,各研究 室）
5	16:30~18:00						
6	18:10~19:40						
7	19:50~21:20						

※授業時間は科目担当教員と学生間での調整を可能とする。

※1年次に履修しなかった科目は2年次以降に受講が可能である。

【資料2-3】履修モデル③ 多職種連携・家庭支援のスペシャリスト 時間割・担当者・教室の配置

- ・このモデルは、ソーシャルワークの分野において、虐待・ネグレクトを受けた子どもや虐待傾向を有する親・家族の心理社会的特徴に関する専門的知識を有し、保健、医療、教育などの諸機関、多職種と連携し、虐待リスクのある子ども・家庭を支援するための包括的支援体制を構築できる人材の育成を想定している。
- ・選択科目については、学生の関心、専門性、志向にあわせて履修することが想定される。
- ・1年次未履修の科目は2年次に履修可能とし、社会人等による履修の場合は、選択科目等を2年次に分散させて履修することも想定される。

【1年前期】		■：履修する科目							
時限	時間	月	火	水	木	金	土	日	
1	9:00~10:30								
2	10:40~12:10								
3	13:10~14:40								
4	14:50~16:20								
5	16:30~18:00								
6	18:10~19:40	子ども家庭福祉実践演習Ⅰ（施設） （担当:西澤、相澤、奥山） （教室:C201）	人間福祉学特講 （担当:山田、橋爪、石垣、池田、里見） （教室:C102）	人間福祉学研究方法 （担当:高木、太田、橋爪） （教室:C102）	子ども虐待臨床特講 （担当:西澤） （教室:C103）	アタッチメント理論の臨床応用 （担当:奥山） （教室:C103）	スーパービジョン特講 （担当:山田、相澤） （教室:C201）	虐待傾向を示す親の心理・社会的特徴 （担当:西澤） （教室:C201）	
7	19:50~21:20								

※6・7限の授業は続けて行い、前期前半、前期後半で科目が分かれる。

※1年次に履修しなかった科目は2年次以降に受講が可能である。

※「子ども家庭福祉実習Ⅰ（施設）」は1日7時間、週1日（原則、土曜）の実習を12週間、実習事前事後指導を含め、全体で90時間実施する。なお、曜日等の詳細は実習先と日程調整する。

【1年後期】

■：履修する科目

時限	時間	月	火	水	木	金	土	
1	9:00~10:30	子ども家庭福祉実習Ⅱ (市町村、在宅) (担当:山田、林) (教室:C201,実習施設)				金	人間福祉実践演習Ⅰ (担当:柳田、中島、伊藤、青柳、大塚、高木、池田、高野、鳥居、古屋、奥谷、里見、太田) (教室:C102,C103,C201,研究室)	
2	10:40~12:10							
3	13:10~14:40						臨床発達心理学特講(担当:太田)(教室:C102) 地域福祉論特講(担当:高木)(教室:C103)	
4	14:50~16:20						人間福祉学特別研究Ⅰ (担当:西澤、相澤、奥山、柳田、中島、高野、山田、池田、大塚、青柳、里見、鳥居、古屋、高木、石垣、太田、橋爪) (教室:C102,C103,C201,研究室)	
5	16:30~18:00						子どものウェルビーイング特講 (担当:高野、鳥居) (教室:C102)	
6	18:10~19:40		子ども家庭福祉実践演習Ⅱ (市町村、在宅) (担当:西澤、相澤、奥山) (教室:C201)		ソーシャルワークの価値と理論 (担当:柳田) (教室:C102)	地域福祉マネジメント実践方法論特講 (担当:中島、大塚、青柳) (教室:C102)	ソーシャルペダゴジー (担当:西澤) (教室:C201)	発達障害支援特講 (担当:里見) (教室:C201)
7	19:50~21:20							

※6・7限の授業は続けて行い、後期前半、後期後半で科目が分かれる。

※1年次に履修しなかった科目は2年次以降に受講が可能である。

※授業時間は科目担当教員と学生間での調整を可能とする。

※「子ども家庭福祉実習Ⅱ(市町村、在宅)」は1日7時間、週1日の実習を12週間、実習事前事後指導を含め、全体で90時間実施する。なお、曜日等の詳細は実習先と日程調整する。

【2年前期】

■：履修する科目

時限	時間	月	火	水	木	金	土	
1	9:00~10:30	子ども家庭福祉実習Ⅲ (児童相談所) (担当:山田、林) (教室:C201,実習施設)					人間福祉実践演習Ⅱ (担当:柳田、中島、伊藤、青柳、大塚、高木、池田、高野、鳥居、古屋、奥谷、里見、太田) (教室:C102,C103,研究室)	
2	10:40~12:10							
3	13:10~14:40						ファミリーソーシャルワーク特講(担当:山田) (教室:C102)	
4	14:50~16:20						子どもの表現特講(担当:高野、古屋、奥谷) (教室:C103)	
5	16:30~18:00						人間福祉学特別研究Ⅱ(担当:西澤、相澤、奥山、柳田、中島、高野、山田、池田、大塚、青柳、里見、鳥居、古屋、高木、石垣、太田、橋爪) (教室:C102,C103,C201,研究室)	
6	18:10~19:40		子ども家庭福祉実践演習Ⅲ(児童相談所) (担当:西澤、相澤、奥山) (教室:C201)		ソーシャルワークの実践と分析(担当:伊藤) (教室:C103)	多文化共生教育・保育特講(担当:池田) (教室:C103)	子ども虐待とアドボカシー(担当:相澤) (教室:C102)	小児精神医学特講(担当:奥山) (教室:C102)
7	19:50~21:20						福祉行財政学特講(担当:石垣) (教室:C103)	

※6・7限の授業は続けて行い、後期前半、後期後半で科目が分かれる。

※1年次に履修しなかった科目は2年次以降に受講が可能である。

※授業時間は科目担当教員と学生間での調整を可能とする。

※「子ども家庭福祉実習Ⅲ(児童相談所)」は1日7時間、週1日の実習を12週間、実習事前事後指導を含め、全体で90時間実施する。なお、曜日等の詳細は実習先と日程調整する。

【2年後期】

■：履修する科目

時限	時間	月	火	水	木	金	土
1	9:00~10:30						
2	10:40~12:10						
3	13:10~14:40						人間福祉学課題研究 (担当:西澤、相澤、奥山、 柳田、中島、高野、山田、 池田、大塚、青柳、里見、 鳥居、古屋、高木、石垣、 太田、橋爪) (教 室:C101,C102,C103,C2 01,各研究室)
4	14:50~16:20						人間福祉学特別研究Ⅲ (担当:西澤、相澤、奥山、 柳田、中島、高野、山田、 池田、大塚、青柳、里見、 鳥居、古屋、高木、石垣、 太田、橋爪) (教 室:C101,C102,C103,C2 01,各研究室)
5	16:30~18:00						
6	18:10~19:40						
7	19:50~21:20						

※授業時間は科目担当教員と学生間での調整を可能とする。

※1年次に履修しなかった科目は2年次以降に受講が可能である。

【資料2】山梨県立大学大学院人間福祉学専攻 人間福祉学専攻 時間割・担当者・教室配置

【1年前期】

時限	時間	月	火	水	木	金	土	日		
1	9:00~10:30	子ども家庭福祉実習 I (施設) (担当:山田、林) (教室:C201,実習施設)					子ども家庭福祉実習 I (施設) (担当:山田、林) (教室:C201,実習施設)			
2	10:40~12:10									
3	13:10~14:40									
4	14:50~16:20									
5	16:30~18:00					子ども家庭福祉実践演習 I (施設) (担当:西澤、相澤、奥山) (教室:C201)				
6	18:10~19:40		人間福祉学特講 (担当:山田、橋爪、石垣、池田、里見) (教室:C102)	人間福祉学研究方法 (担当:高木、太田、橋爪) (教室:C102,A503)	子ども虐待臨床特講 (担当:西澤) (教室:C103)	アタッチメント理論の臨床応用 (担当:奥山) (教室:C103)	スーパービジョン特講 (担当:山田、相澤) (教室:C201)	虐待傾向を示す親の心理・社会的特徴 (担当:西澤) (教室:C201)		
7	19:50~21:20									

※6・7限の授業は続けて行い、前期前半、前期後半で科目が分かれる。

※「子ども家庭福祉実習 I (施設)」は1日8時間、週3日の実習を4週間、(但し全体で90時間)実施する。詳細は実習先と日程調整する。

【1年後期】

時限	時間	月	火	水	木	金	土		
1	9:00~10:30	子ども家庭福祉実習Ⅱ (市町村、在宅) (担当:山田、林) (教室:C201,実習施設)					人間福祉実践演習Ⅰ (担当:柳田、中島、伊藤、 青柳、大塚、高木、池田、 高野、鳥居、古屋、奥谷、 里見、太田) (教室: C102,C103,C201,研究 室)		
2	10:40~12:10						臨床発達心理学特講(担当: 太田)(教室:C102)		
3	13:10~14:40						地域福祉論特講(担当:高 木)(教室:C103)		
4	14:50~16:20						人間福祉学特別研究Ⅰ (担当:西澤、相澤、奥山、 柳田、中島、高野、山田、 池田、大塚、青柳、里見、 鳥居、古屋、高木、石垣、 太田、橋爪) (教 室:C102,C103,C201,研 究室)		
5	16:30~18:00						子ども家庭福祉実践演習Ⅱ (市町村、在宅) (担当:西澤、相澤、奥山) (教室:C201)	子どものウェルビーイング 特講 (担当:高野、鳥居) (教室:C102)	
6	18:10~19:40				ソーシャル ワークの価値 と理論 (担当:柳 田) (教室: C102)	地域福祉マネ ジメント実践 方法論特講 (担当:中 島、大塚、青 柳) (教室: C102)	ソーシャルペ ダゴジー (担当:西 澤) (教室: C201)	発達障害支援 特講 (担当:里 見) (教室: C201)	
7	19:50~21:20								

※6・7限の授業は続けて行い、後期前半、後期後半で科目が分かれる。

※科目は、1年次に履修しなかった学生は2年次に受講が可能である。

※授業時間は科目担当教員と学生間での調整を可能とする。

※「子ども家庭福祉実習Ⅱ(市町村、在宅)」は1日8時間、週3日の実習を4週間、(但し全体で90時間)実施する。詳細は実習先と日程調整する。

【2年前期】

時限	時間	月	火	水	木	金	土	
1	9:00~10:30	子ども家庭福祉実習Ⅲ (児童相談所) (担当:山田、林) (教室:C201,実習施設)						人間福祉実践演習Ⅱ (担当:柳田、中島、伊藤、 青柳、大塚、高木、池田、 高野、鳥居、古屋、奥谷、 里見、太田) (教室:C102,C103, 研究室)
2	10:40~12:10							
3	13:10~14:40							ファミリーソーシャルワーク 特講(担当:山田) (教室:C102)
4	14:50~16:20							子どもの表現特講 (担当:高野、古屋、奥谷) (教室:C103)
5	16:30~18:00							人間福祉学特別研究Ⅱ (担当:西澤、相澤、奥山、 柳田、中島、高野、山田、 池田、大塚、青柳、里見、 鳥居、古屋、高木、石垣、 太田、橋爪) (教 室:C102,C103,C201, 研究室)
6	18:10~19:40				子ども家庭福祉実践演習Ⅲ (児童相談所) (担当:西澤、相澤、奥山) (教室:C201)	福祉行財政学特講 (担当:石垣) (教室:C103)		
7	19:50~21:20				ソーシャル ワークの実践 と分析 (担当:伊 藤) (教室: C103)	多文化共生教 育・保育特講 (担当:池 田) (教室: C103)	子ども虐待と アドボカシー (担当:相 澤) (教室: C102)	小児精神医学 特講 (担当:奥 山) (教室: C102)

※6・7限の授業は続けて行い、後期前半、後期後半で科目が分かれる。

※1年次未履修科目は2年次に受講可能とする。

※授業時間は科目担当教員と学生間での調整を可能とする。

※「子ども家庭福祉実習Ⅲ（児童相談所）」は1日8時間、週3日の実習を4週間、（但し全体で90時間）実施する。詳細は実習先と日程調整する。

【2年後期】

時限	時間	月	火	水	木	金	土
1	9:00~10:30						
2	10:40~12:10						
3	13:10~14:40						人間福祉学課題研究 (担当:西澤、相澤、奥山、柳田、中島、高野、山田、池田、大塚、青柳、里見、鳥居、古屋、高木、石垣、太田、橋爪) (教室:C101,C102,C103,C201,各研究室)
4	14:50~16:20						人間福祉学特別研究Ⅲ (担当:西澤、相澤、奥山、柳田、中島、高野、山田、池田、大塚、青柳、里見、鳥居、古屋、高木、石垣、太田、橋爪) (教室:C101,C102,C103,C201,各研究室)
5	16:30~18:00						
6	18:10~19:40						
7	19:50~21:20						

※1年次未履修科目は2年次に受講可能とする。

※授業時間は科目担当教員と学生間での調整を可能とする。

【資料2-1】履修モデル① 虐待対応のスペシャリスト 時間割・担当者・教室の配置

- ・このモデルは、子ども家庭福祉分野において、虐待・ネグレクトが子どもに与える心理的・精神医学的影響及び虐待を生じる親・家族の心理社会的特徴に関する専門的知識を有し、虐待相談業務や子どもへの治療的養育、心理的ケアを担当できる高度な技能を有する人材の育成を想定している。
- ・選択科目については、学生の関心、専門性、志向にあわせて履修することが想定される。
- ・1年次未履修の科目は2年次に履修可能とし、社会人等による履修の場合は、選択科目等を2年次に分散させて履修することも想定される。

【1年前期】

■：履修する科目

時限	時間	月	火	水	木	金	土	日		
1	9:00~10:30	子ども家庭福祉実習 I (施設) (担当:山田、林) (教室:C201,実習施設)					子ども家庭福祉実習 I (施設) (担当:山田、林) (教室:C201,実習施設)			
2	10:40~12:10									
3	13:10~14:40									
4	14:50~16:20									
5	16:30~18:00					子ども家庭福祉実践演習 I (施設) (担当:西澤、相澤、奥山) (教室:C201)				
6	18:10~19:40		人間福祉学特講 (担当:山田、橋爪、石垣、池田、里見) (教室:C102)	人間福祉学研究方法 (担当:高木、太田、橋爪) (教室:C102)	子ども虐待臨床特講 (担当:西澤) (教室:C103)	アタッチメント理論の臨床応用 (担当:奥山) (教室:C103)	スーパービジョン特講 (担当:山田、相澤) (教室:C201)	虐待傾向を示す親の心理・社会的特徴 (担当:西澤) (教室:C201)		
7	19:50~21:20									

※6・7限の授業は続けて行い、前期前半、前期後半で科目が分かれる。

※1年次に履修しなかった科目は2年次以降に受講が可能である。

※「子ども家庭福祉実習 I (施設)」は1日8時間、週3日の実習を4週間、(但し全体で90時間)実施する。詳細は実習先と日程調整する。

【1年後期】

■：履修する科目

時限	時間	月	火	水	木	金	土				
1	9:00~10:30	■	■	■	■	■	人間福祉実践演習Ⅰ (担当:柳田、中島、伊藤、 青柳、大塚、高木、池田、 高野、鳥居、古屋、奥谷、 里見、太田) (教室:C100,C101)				
2	10:40~12:10						臨床発達心理学特講(担当: 太田)(教室:C102)				
3	13:10~14:40						地域福祉論特講(担当:高 木)(教室:C103)				
							人間福祉学特別研究Ⅰ (担当:西澤、相澤、奥山、 柳田、中島、高野、山田、 池田、大塚、青柳、里見、				
4	14:50~16:20						子ども家庭福祉実践演習Ⅱ (市町村、在宅) (担当:西澤、相澤、奥山) (教室:C201)	子どものウェルビーイング 特講 (担当:高野、鳥居) (教室:C102)			
5	16:30~18:00						子ども家庭福祉実習Ⅱ (市町村、在宅) (担当:山田、林) (教室:C201,実習施設)	ソーシャルワークの価値 と理論 (担当:柳 田) (教室: C201)	地域福祉マネ ジメント実践 方法論特講 (担当:中 島、大塚、青 柳)	ソーシャルペ ダゴジー (担当:西 澤) (教室: C201)	発達障害支援 特講 (担当:里 見) (教室: C201)
6	18:10~19:40										
7	19:50~21:20										

※6・7限の授業は続けて行い、後期前半、後期後半で科目が分かれる。

※1年次に履修しなかった科目は2年次以降に受講が可能である。

※授業時間は科目担当教員と学生間での調整を可能とする。

※「子ども家庭福祉実習Ⅱ(市町村、在宅)」は1日8時間、週3日の実習を4週間、(但し全体で90時間)実施する。詳細は実習先と日程調整する。

【2年前期】

■：履修する科目

時限	時間	月	火	水	木	金	土				
1	9:00~10:30	子ども家庭福祉実習Ⅲ (児童相談所) (担当:山田、林) (教室:C201,実習施設)					人間福祉実践演習Ⅱ (担当:柳田、中島、伊藤、 青柳、大塚、高木、池田、 高野、鳥居、古屋、奥谷、 里見、太田) (教室:C102,C103, 研究室)				
2	10:40~12:10										
3	13:10~14:40						ファミリーソーシャルワーク 特講(担当:山田) (教室:C102)				
							子どもの表現特講 (担当:高野、古屋、奥谷) (教室:C103)				
							人間福祉学特別研究Ⅱ (担当:西澤、相澤、奥山、 柳田、中島、高野、山田、 池田、大塚、青柳、里見、				
4	14:50~16:20										
5	16:30~18:00									子ども家庭福祉実践演習Ⅲ (児童相談所) (担当:西澤、相澤、奥山) (教室:C201)	福祉行財政学特講 (担当:石垣) (教室:C103)
6	18:10~19:40				ソーシャル ワークの実践 と分析 (担当:伊 藤) (教室: 藤)	多文化共生教 育・保育特講 (担当:池 田) (教室: C103)	子ども虐待と アドボカシー (担当:相 澤) (教室: C102)	小児精神医学 特講 (担当:奥 山) (教室: C102)			
7	19:50~21:20										

※6・7限の授業は続けて行い、後期前半、後期後半で科目が分かれる。

※授業時間は科目担当教員と学生間での調整を可能とする。

※「子ども家庭福祉実習Ⅲ（児童相談所）」は1日8時間、週3日の実習を4週間、（但し全体で90時間）実施する。詳細は実習先と日程調整する。

【2年後期】

■：履修する科目

時限	時間	月	火	水	木	金	土
1	9:00~10:30						
2	10:40~12:10						
3	13:10~14:40						人間福祉学課題研究 (担当:西澤、相澤、奥山、 柳田、中島、高野、山田、 池田、大塚、青柳、里見、 鳥居、古屋、高木、石垣、 太田、橋爪) (教室:C101,C102, C103,C201,各研究 室)
4	14:50~16:20						人間福祉学特別研究Ⅲ (担当:西澤、相澤、奥山、 柳田、中島、高野、山田、 池田、大塚、青柳、里見、
5	16:30~18:00						
6	18:10~19:40						
7	19:50~21:20						

※授業時間は科目担当教員と学生間での調整を可能とする。

※1年次に履修しなかった科目は2年次以降に受講が可能である。

【資料2-2】履修モデル② 保育現場での虐待早期発見、子どもケアのスペシャリスト 時間割・担当者・教室の配置

- ・このモデルは、子どもの保育・幼児教育の分野において、虐待・ネグレクトを受けた子どもや虐待傾向を有する親・家族の心理社会的特徴に関する専門的知識を有し、保育所・認定こども園等を基盤とした子ども及び家族への支援を提供できる高度な技能と実践力を有する人材の育成を想定している。
- ・選択科目については、学生の関心、専門性、志向にあわせて履修することが想定される。
- ・1年次未履修の科目は2年次に履修可能とし、社会人等による履修の場合は、選択科目等を2年次に分散させて履修することも想定される。

【1年前期】

■：履修する科目

時限	時間	月	火	水	木	金	土	日		
1	9:00~10:30	子ども家庭福祉実習 I (施設) (担当:山田、林) (教室:C201,実習施設)					子ども家庭福祉実習 I (施設) (担当:山田、林) (教室:C201,実習施設)			
2	10:40~12:10									
3	13:10~14:40									
4	14:50~16:20									
5	16:30~18:00				子ども家庭福祉実践演習 I (施設) (担当:西澤、相澤、奥山) (教室:C201)					
6	18:10~19:40		人間福祉学特講 (担当:山田、橋爪、石垣、池田、里見) (教室:C102)	人間福祉学研究方法 (担当:高木、太田、橋爪) (教室:C102)	子ども虐待臨床特講 (担当:西澤) (教室:C103)	アタッチメント理論の臨床応用 (担当:奥山) (教室:C103)	スーパービジョン特講 (担当:山田、相澤) (教室:C201)	虐待傾向を示す親の心理・社会的特徴 (担当:西澤) (教室:C201)		
7	19:50~21:20									

※6・7限の授業は続けて行い、前期前半、前期後半で科目が分かれる。

※1年次に履修しなかった科目は2年次に以降に受講が可能である。

※「子ども家庭福祉実習 I (施設)」は1日8時間、週3日の実習を4週間、(但し全体で90時間)実施する。詳細は実習先と日程調整する。

【1年後期】

■：履修する科目

時限	時間	月	火	水	木	金	土		
1	9:00~10:30	子ども家庭福祉実習Ⅱ (市町村、在宅) (担当:山田、林) (教室:C201,実習施設)					人間福祉実践演習Ⅰ (担当:柳田、中島、伊藤、 青柳、大塚、高木、池田、 高野、鳥居、古屋、奥谷、 里見、太田) (教室: C102,C103,C201, 研究 室)		
2	10:40~12:10								
3	13:10~14:40						臨床発達心理学特講(担当: 太田)(教室:C102) 地域福祉論特講(担当:高 木)(教室:C103)		
4	14:50~16:20						人間福祉学特別研究Ⅰ (担当:西澤、相澤、奥山、 柳田、中島、高野、山田、 池田、大塚、青柳、里見、 鳥居、古屋、高木、石垣、 太田、橋爪) (教室:C102,C103,C201, 研究 室)		
5	16:30~18:00						子ども家庭福祉実践演習Ⅱ (市町村、在宅) (担当:西澤、相澤、奥山) (教室:C201)		
6	18:10~19:40				ソーシャル ワークの価値 と理論 (担当:柳 田) (教室: C102)	地域福祉マ ネジメント実 践方法論特 講 (担当:中 島、大塚、青 柳) (教室: C102)	ソーシャルベ ンチャー (担当:西 澤) (教室: C201)	発達障害支援 特講 (担当:里 見) (教室: C201)	
7	19:50~21:20						子どものウェルビーイング 特講 (担当:高野、鳥居) (教室:C102)		

※6・7限の授業は続けて行い、後期前半、後期後半で科目が分かれる。

※1年次に履修しなかった科目は2年次以降に受講が可能である。

※選択科目の授業時間は科目担当教員と学生間での調整を可能とする。

※「子ども家庭福祉実習Ⅱ(市町村、在宅)」は1日8時間、週3日の実習を4週間、(但し全体で90時間)実施する。詳細は実習先と日程調整する。

【2年前期】

■：履修する科目

時限	時間	月	火	水	木	金	土				
1	9:00~10:30	子ども家庭福祉実習Ⅲ (児童相談所) (担当:山田、林) (教室:C201,実習施設)						人間福祉実践演習Ⅱ (担当:柳田、中島、伊藤、 青柳、大塚、高木、池田、 高野、鳥居、古屋、奥谷、 里見、太田) (教室:C102,C103, 研究 室)			
2	10:40~12:10										
3	13:10~14:40										ファミリーソーシャルワーク 特講(担当:山田) (教室:C102) 子どもの表現特講 (担当:高野、古屋、奥谷) (教室:C103)
4	14:50~16:20										人間福祉学特別研究Ⅱ (担当:西澤、相澤、奥山、 柳田、中島、高野、山田、 池田、大塚、青柳、里見、 鳥居、古屋、高木、石垣、 太田、橋爪) (教室:C102,C103,C201, 研究 室)
5	16:30~18:00									子ども家庭福祉実践演習Ⅲ (児童相談所) (担当:西澤、相澤、奥山) (教室:C201)	福祉行財政学特講 (担当:石垣) (教室:C103)
6	18:10~19:40				ソーシャル ワークの実践 と分析 (担当:伊 藤) (教室: C103)	多文化共生教 育・保育特講 (担当:池 田) (教室: C103)	子ども虐待と アドボカシー (担当:相 澤) (教室: C102)	小児精神医学 特講 (担当:奥 山) (教室: C102)			
7	19:50~21:20										

※6・7限の授業は続けて行い、後期前半、後期後半で科目が分かれる。

※1年次に履修しなかった科目は2年次に降に受講が可能である。

※選択科目の授業時間は科目担当教員と学生間での調整を可能とする。

※「子ども家庭福祉実習Ⅲ（児童相談所）」は1日8時間、週3日の実習を4週間、（但し全体で90時間）実施する。詳細は実習先と日程調整する。

【2年後期】

■：履修する科目

時限	時間	月	火	水	木	金	土
1	9:00~10:30						
2	10:40~12:10						
3	13:10~14:40						人間福祉学課題研究 (担当:西澤、相澤、奥山、柳田、中島、高野、山田、池田、大塚、青柳、里見、鳥居、古屋、高木、石垣、太田、橋爪) (教室:C101,C102,C103,C201,各研究室)
4	14:50~16:20						人間福祉学特別研究Ⅲ (担当:西澤、相澤、奥山、柳田、中島、高野、山田、池田、大塚、青柳、里見、鳥居、古屋、高木、石垣、太田、橋爪) (教室:C101,C102,C103,C201,各研究室)
5	16:30~18:00						
6	18:10~19:40						
7	19:50~21:20						

※授業時間は科目担当教員と学生間での調整を可能とする。

※1年次に履修しなかった科目は2年次以降に受講が可能である。

【資料2-3】履修モデル③ 多職種連携・家庭支援のスペシャリスト 時間割・担当者・教室の配置

・このモデルは、ソーシャルワークの分野において、虐待・ネグレクトを受けた子どもや虐待傾向を有する親・家族の心理社会的特徴に関する専門的知識を有し、保健、医療、教育などの諸機関、多職種と連携し、虐待リスクのある子ども・家庭を支援するための包括的支援体制を構築できる人材の育成を想定している。

・選択科目については、学生の関心、専門性、志向にあわせて履修することが想定される。

・1年次未履修の科目は2年次に履修可能とし、社会人等による履修の場合は、選択科目等を2年次に分散させて履修することも想定される。

【1年前期】

■：履修する科目

時限	時間	月	火	水	木	金	土	日	
1	9:00~10:30	子ども家庭福祉実習 I (施設) (担当:山田、林) (教室:C201,実習施設)					子ども家庭福祉実習 I (施設) (担当:山田、林) (教室:C201,実習施設)		
2	10:40~12:10								
3	13:10~14:40								
4	14:50~16:20								
5	16:30~18:00				子ども家庭福祉実践演習 I (施設) (担当:西澤、相澤、奥山) (教室:C201)				
6	18:10~19:40		人間福祉学特講 (担当:山田、橋爪、石垣、池田、里見) (教室:C102)	人間福祉学研究方法 (担当:高木、太田、橋爪) (教室:C102)	子ども虐待臨床特講 (担当:西澤) (教室:C103)	アタッチメント理論の臨床応用 (担当:奥山) (教室:C103)	スーパービジョン特講 (担当:山田、相澤) (教室:C201)	虐待傾向を示す親の心理・社会的特徴 (担当:西澤) (教室:C201)	
7	19:50~21:20								

※6・7限の授業は続けて行い、前期前半、前期後半で科目が分かれる。

※1年次に履修しなかった科目は2年次以降に受講が可能である。

※「子ども家庭福祉実習 I (施設)」は1日8時間、週3日の実習を4週間、(但し全体で90時間)実施する。詳細は実習先と日程調整する。

【1年後期】

■：履修する科目

時限	時間	月	火	水	木	金	土		
1	9:00~10:30	子ども家庭福祉実習Ⅱ (市町村、在宅) (担当:山田、林) (教室:C201,実習施設)				金	人間福祉実践演習Ⅰ (担当:柳田、中島、伊藤、 青柳、大塚、高木、池田、 高野、鳥居、古屋、奥谷、 里見、太田) (教室: C102,C103,C201, 研究室)		
2	10:40~12:10						臨床発達心理学特講(担当: 太田)(教室:C102)		
3	13:10~14:40						地域福祉論特講(担当:高 木)(教室:C103)		
4	14:50~16:20						人間福祉学特別研究Ⅰ (担当:西澤、相澤、奥山、 柳田、中島、高野、山田、 池田、大塚、青柳、里見、 鳥居、古屋、高木、石垣、 太田、橋爪) (教室:C102,C103,C201, 研究室)		
5	16:30~18:00						子ども家庭福祉実践演習Ⅱ (市町村、在宅) (担当:西澤、相澤、奥山) (教室:C201)	子どものウェルビーイング 特講 (担当:高野、鳥居) (教室:C102)	
6	18:10~19:40				ソーシャル ワークの価値 と理論 (担当:柳 田) (教室: C102)	地域福祉マ ネジメント実 践 方法論特講 (担当:中 島、大塚、青 柳) (教室: C102)	ソーシャルバ ラゴジー (担当:西 澤) (教室: C201)	発達障害支援 特講 (担当:里 見) (教室: C201)	
7	19:50~21:20								

※6・7限の授業は続けて行い、後期前半、後期後半で科目が分かれる。

※1年次に履修しなかった科目は2年次以降に受講が可能である。

※授業時間は科目担当教員と学生間での調整を可能とする。

※「子ども家庭福祉実習Ⅱ(市町村、在宅)」は1日8時間、週3日の実習を4週間、(但し全体で90時間)実施する。詳細は実習先と日程調整する。

【2年前期】

■：履修する科目

時限	時間	月	火	水	木	金	土	
1	9:00~10:30	子ども家庭福祉実習Ⅲ (児童相談所) (担当:山田、林) (教室:C201,実習施設)					人間福祉実践演習Ⅱ (担当:柳田、中島、伊藤、 青柳、大塚、高木、池田、 高野、鳥居、古屋、奥谷、 里見、太田) (教室:C102,C103, 研究室)	
2	10:40~12:10							
3	13:10~14:40						ファミリーソーシャルワーク 特講(担当:山田) (教室:C102)	
4	14:50~16:20						子どもの表現特講 (担当:高野、古屋、奥谷) (教室:C103)	
5	16:30~18:00						人間福祉学特別研究Ⅱ (担当:西澤、相澤、奥山、 柳田、中島、高野、山田、 池田、大塚、青柳、里見、 鳥居、古屋、高木、石垣、 太田、橋爪) (教室:C102,C103,C201, 研究室)	
6	18:10~19:40				ソーシャル ワークの実践 と分析 (担当:伊 藤) (教室: C103)	多文化共生教 育・保育特講 (担当:池 田) (教室: C103)	子ども虐待と アドボカシー (担当:相 澤) (教室: C102)	小児精神医学 特講 (担当:奥 山) (教室: C102)
7	19:50~21:20					子ども家庭福祉実践演習Ⅲ (児童相談所) (担当:西澤、相澤、奥山) (教室:C201)	福祉行財政学特講 (担当:石垣) (教室:C103)	

※6・7限の授業は続けて行い、後期前半、後期後半で科目が分かれる。

※1年次に履修しなかった科目は2年次以降に受講が可能である。

※授業時間は科目担当教員と学生間での調整を可能とする。

※「子ども家庭福祉実習Ⅲ(児童相談所)」は1日8時間、週3日の実習を4週間、(但し全体で90時間)実施する。詳細は実習先と日程調整する。

【2年後期】		■：履修する科目					
時限	時間	月	火	水	木	金	土
1	9:00~10:30						
2	10:40~12:10						
3	13:10~14:40						人間福祉学課題研究 (担当:西澤、相澤、奥山、 柳田、中島、高野、山田、 池田、大塚、青柳、里見、 鳥居、古屋、高木、石垣、 太田、橋爪) (教室:C101,C102, C103,C201,各研究室)
4	14:50~16:20						人間福祉学特別研究Ⅲ (担当:西澤、相澤、奥山、 柳田、中島、高野、山田、 池田、大塚、青柳、里見、 鳥居、古屋、高木、石垣、 太田、橋爪) (教室:C101,C102, C103,C201,各研究室)
5	16:30~18:00						
6	18:10~19:40						
7	19:50~21:20						

※授業時間は科目担当教員と学生間での調整を可能とする。

※1年次に履修しなかった科目は2年次以降に受講が可能である。

科目名	子ども家庭福祉実習Ⅰ（施設）				
担当者	山田勝美・林知然				
開講期	前期	履修年次	1年次	必修選択別	選択
単位数	2単位	時間数	90時間	授業形式	実習
カテゴリ	実習・演習科目（実習科目）				

## 【科目の目的】

社会的養護系施設では、高機能化を図ることが求められている。特に、攻撃性や支配性の高さや性化行動等に象徴される重篤な問題への治療的養育を展開できる専門性が期待されている。

さらに、虐待をした親自身の抱える問題に接近し、親自身が自らと向き合いながら、問題解決を図っていくための専門性の体得も必須となっている。

本実習では、当該学生が入学前に獲得した知見やスキルを確認したうえで、新たな専門性の体得に向け、実習計画を作成し、実習に臨む。実習では、現場における実習指導者の指導を受けつつ、自ら内省しながら実践を展開する。

具体的には、まず学生が自らの実践経験をふまえ、実習において身に着けるべき知識や技能等の課題を明確化できるよう確認していく作業を行う。次に、その明確化した課題を言語化し、実習計画書を文献等をふまえつつ、まとめていく。そのうえで実習に臨む。実習中においては、現場の指導者との連携のなかで、丁寧に実習において学ぶべき内容を実習生の実習内容との関係からつねに確認し、効果的な学びを得られるようにする。実習後は、自らの行為を内省・洞察するなかで、いかに思考し、実践を展開すべきであったかを言語化する。

## 【到達目標】

（知識・理解）

- ・自らの実践における課題を通して、身に着なければならぬ専門性を言語化できる。

（思考・判断・表現／思考・技能・実践）

- ・実践のなかで技能の向上を図り、その成長を言語化できる。

（態度・志向性）

- ・実践に対し洞察を深めようとする態度を維持し続けられる。

## 【授業内容】

第1回 オリエンテーション：授業の目的と方法：実習の目的と意義

第2回 実習事前指導：実習目標の明確にし、実習計画書を作成する。

第3回 実習① 週1回7時間の実習を行う。

現場実習指導者と大学教員・学生を交え、実習プログラム内容の確認等を行う。

第4回 実習② 同上

第5回 実習③ 同上

第6回 実習④ 同上

第7回 実習⑤ 同上

第8回 実習⑥ 実習中間まとめ：実習前半の自らの関り等を確認し、あらためて後半の実習課題を明確化する。

第9回 実習⑦ 週1回7時間の実習を行う。

現場実習指導者と大学教員・学生を交え、実習プログラム内容の確認等を行う。

第10回 実習⑧ 同上

第11回 実習⑨ 同上

第12回 実習⑩ 同上

第13回 実習⑪ 同上

第14回 実習⑫ 同上

第15回 実習事後指導：実習における自らの行為を内省・洞察するなかで、いかに思考し、実践を展開すべきであったかを言語化する。自身の課題を明確化し、次の実習や自身の実践現場での活動へ繋げる。

## 【授業外の学修】

- ・実習指導教員から指示され課題を自宅において取り組む。

**【教育方法】**

・少人数である利点を生かし、小グループでのディスカッションを中心に授業を展開する。

**【評価方法】**

(知識・理解)

自らの実践上の課題を理論等と結び付けて理解できる 40%

(思考・判断・表現／思考・技能・実践)

自らの実践を内省し、求められる課題を思考できる 30%

(態度・志向性)

実習の意義を理解し、積極的に課題等に取り組むことができる 30%

**【必携図書】**

特になし

**【参考図書】**

適宜紹介する

**【履修上の注意】**

実習は演習とセットである。そのことを理解したうえで、受講して頂きたい。

**【学生へのメッセージ】**

自らの実践を丁寧に吟味することが肝要です。客観的な眼差し、自らを内省する姿勢を大切にして、授業に臨んで頂きたい。

# 【別紙資料6②】

科目名	子ども家庭福祉実習Ⅰ（施設）				
担当者	山田勝美・林知然				
開講期	前期	履修年次	1年次	必修選択別	選択
単位数	2単位	時間数	90時間	授業形式	実習
カテゴリ	実習・演習科目（実習科目）				

## 【科目の目的】

社会的養護系施設では、高機能化を図ることが求められている。特に、攻撃性や支配性の高さや性化行動等に象徴される重篤な問題への治療的養育を展開できる専門性が期待されている。

さらにいえば、虐待をした親自身の抱える問題に接近し、親自身が自らと向き合いながら、問題解決を図っていくための専門性の体得も必須となっている。

本実習では、当該学生が入学前に獲得した知見やスキルを確認したうえで、新たな専門性の体得に向け、実習計画を作成し、実習に臨む。実習では、現場における実習指導者の指導を受けつつ、自ら内省しながら実践を展開する。

具体的には、まず学生が自らの実践経験をふまえ、実習において身に着けるべき知識や技能等の課題を明確化できるように確認していく作業を行う。次に、その明確化した課題を言語化し、実習計画書を文献等をふまえて、まとめていく。そのうえで実習に臨む。実習中においては、現場の指導者との連携のなかで、丁寧に実習において学ぶべき内容を実習生の実習内容との関係からつねに確認し、効果的な学びを得られるようにする。実習後は、自らの行為を内省・洞察するなかで、いかに思考し、実践を展開すべきであったかを言語化し、実習報告書の作成を行う。

## 【到達目標】

（知識・理解）

- ・自らの実践における課題を通して、身に着なければならぬ専門性を言語化できる。

（思考・判断・表現／思考・技能・実践）

- ・実践のなかで技能の向上を図り、その成長を言語化できる。

（態度・志向性）

- ・実践に対し洞察を深めようとする態度を維持し続けられる。

## 【授業内容】

第1回 オリエンテーション：授業の目的と方法：実習の目的と意義

第2回 実習目標の明確化①何を学ぶ必要があるのか、その言語化を図る

第3回 実習目標の明確化②教員と学生との討議をふまえ、目標を客観化し、明確にする

第4回 実習プログラムの検討①どういったプログラムを行う必要があるのかを言語化する

第5回 実習プログラムの検討②教員と学生との討議をふまえ、プログラム内容の客観化を図る

第6回 実習①週1回、現場実習指導者と大学教員・学生を交え、プログラム内容の確認等を行う。

第7回 実習②同上

第8回 実習③同上

第9回 実習④同上

第10回 実習⑤同上

第11回 実習⑥同上

第12回 実習⑦同上

第13回 実習の振り返りと課題の明確化①

第14回 実習の振り返りと課題の明確化②

第15回 実習の総括

## 【授業外の学修】

- ・実習指導教員から指示され課題を自宅において取り組む

## 【教育方法】

- ・少人数である利点を生かし、小グループでのディスカッションを中心に授業を展開する。

## 【評価方法】

（知識・理解）

自らの実践上の課題を理論等と結び付けて理解できる 40%

（思考・判断・表現／思考・技能・実践）

自らの実践を内省し、求められる課題を思考できる 30%

(態度・志向性)

実習の意義を理解し、積極的に課題等に取り組むことができる 30%

**【必携図書】**

特になし。

**【参考図書】**

適宜紹介する。

**【履修上の注意】**

実習は演習とセットである。そのことを理解したうえで、受講して頂きたい。

**【学生へのメッセージ】**

自らの実践を丁寧に吟味することが肝要です。客観的な眼差し、自らを内省する姿勢を大切にして、授業に臨んで頂きたい。

# 【別紙資料7①】

科目名	子ども家庭福祉実習Ⅱ（市町村、在宅）				
担当者	山田勝美・林知然				
開講期	後期	履修年次	1年次	必修選択別	選択
単位数	2単位	時間数	90時間	授業形式	実習
カテゴリ	実習・演習科目				

## 【科目の目的】

複合的な困難を抱え、不適切な養育状態にありながら支援を求められない保護者、そして保護者のもとにしながら助けを求めにくい子どもたち、そうした家族を支援する専門性、加えて、多機関連携をマネジメントする力量が求められている。

本実習では、当該学生が入学前に獲得した知見やスキルを確認したうえで、新たな専門性の体得に向け、実習計画を作成し、実習に臨む。実習では、現場における実習指導者の指導を受けつつ、自ら内省しながら実践を展開する。

具体的には、まず学生が自らの実践経験をふまえ、実習において身に着けるべき知識や技能等の課題を明確化できるよう確認していく作業を行う。次に、その明確化した課題を言語化し、実習計画書を文献等をふまえつつ、まとめていく。そのうえで実習に臨む。実習中においては、現場の指導者との連携のなかで、丁寧に実習において学ぶべき内容を実習生の実習内容との関係からつねに確認し、効果的な学びを得られるようにする。実習後は、自らの行為を内省・洞察するなかで、いかに思考し、実践を展開すべきであったかを言語化する。

## 【到達目標】

（知識・理解）

- ・自らの実践における課題を通して、身に着なければならぬ専門性を言語化できる。

（思考・判断・表現／思考・技能・実践）

- ・実践のなかで技能の向上を図り、その成長を言語化できる。

（態度・志向性）

- ・実践に対し洞察を深めようとする態度を維持し続けられる。

## 【授業内容】

第1回 オリエンテーション：授業の目的と方法：実習の目的と意義

第2回 実習事前指導：実習目標の明確にし、実習計画書を作成する。

第3回 実習① 週1回7時間の実習を行う。

現場実習指導者と大学教員・学生を交え、実習プログラム内容の確認等を行う。

第4回 実習② 同上

第5回 実習③ 同上

第6回 実習④ 同上

第7回 実習⑤ 同上

第8回 実習⑥ 実習中間まとめ：実習前半の自らの関り等を確認し、あらためて後半の実習課題を明確化する。

第9回 実習⑦ 週1回7時間の実習を行う。

現場実習指導者と大学教員・学生を交え、実習プログラム内容の確認等を行う。

第10回 実習⑧ 同上

第11回 実習⑨ 同上

第12回 実習⑩ 同上

第13回 実習⑪ 同上

第14回 実習⑫ 同上

第15回 実習事後指導：実習における自らの行為を内省・洞察するなかで、いかに思考し、実践を展開すべきであったかを言語化する。自身の課題を明確化し、次の実習や自身の実践現場での活動へ繋げる。

## 【授業外の学修】

- ・実習指導教員から課題を提示する場合がある。

## 【教育方法】

・少人数である利点を生かし、小グループでのディスカッションを中心に授業を展開する。

### 【評価方法】

(知識・理解)

自らの実践上の課題を理論等と結び付けて理解できる 40%

(思考・判断・表現／思考・技能・実践)

自らの実践を内省し、求められる課題を思考できる 30%

(態度・志向性)

実習の意義を理解し、積極的に課題等に取り組むことができる 30%

### 【必携図書】

特になし

### 【参考図書】

適宜紹介する

### 【履修上の注意】

実習は演習とセットである。そのことを理解したうえで、受講して頂きたい。

### 【学生へのメッセージ】

自らの実践を丁寧に吟味することが肝要です。客観的な眼差し、自らを内省する姿勢を大切にして、授業に臨んで頂きたい。

科目名	子ども家庭福祉実習Ⅱ（市町村、在宅）				
担当者	山田勝美・林知然				
開講期	後期	履修年次	1年次	必修選択別	選択
単位数	2単位	時間数	90時間	授業形式	実習
カテゴリ	実習・演習科目（実習科目）				

## 【科目の目的】

複合的な困難を抱え、不適切な養育状態にありながら支援を求められない保護者、そして保護者のもとにいながら助けを求めにくい子どもたち、そうした家族を支援する専門性、加えて、多機関連携をマネジメントする力量が求められている。

本実習では、当該学生が入学前に獲得した知見やスキルを確認したうえで、新たな専門性の体得に向け、実習計画を作成し、実習に臨む。実習では、現場における実習指導者の指導を受けつつ、自ら内省しながら実践を展開する。

## 【到達目標】

（知識・理解）

- ・自らの実践における課題を通して、身に着なければならぬ専門性を言語化できる。

（思考・判断・表現／思考・技能・実践）

- ・実践のなかで技能の向上を図り、その成長を言語化できる。

（態度・志向性）

- ・実践に対し洞察を深めようとする態度を維持し続けられる。

## 【授業内容】

第1回 オリエンテーション：授業の目的と方法：実習の目的と意義

第2回 実習目標の明確化①何を学ぶ必要があるのか、その言語化を図る

第3回 実習目標の明確化②教員と学生との討議をふまえ、目標を客観化し、明確にする

第4回 実習プログラムの検討①どういったプログラムを行う必要があるのかを言語化する

第5回 実習プログラムの検討②教員と学生との討議をふまえ、プログラム内容の客観化を図る

第6回 実習①週1回、現場実習指導者と大学教員・学生を交え、プログラム内容の確認等を行う。

第7回 実習②同上

第8回 実習③同上

第9回 実習④同上

第10回 実習⑤同上

第11回 実習⑥同上

第12回 実習⑦同上

第13回 実習の振り返りと課題の明確化①

第14回 実習の振り返りと課題の明確化②

第15回 実習の総括

## 【授業外の学修】

- ・実習指導教員から指示され課題を自宅において取り組む。

## 【教育方法】

- ・少人数である利点を生かし、小グループでのディスカッションを中心に授業を展開する。

## 【評価方法】

（知識・理解）

自らの実践上の課題を理論等と結び付けて理解できる 40%

（思考・判断・表現／思考・技能・実践）

自らの実践を内省し、求められる課題を思考できる 30%

（態度・志向性）

実習の意義を理解し、積極的に課題等に取り組むことができる 30%

## 【必携図書】

特になし。

## 【参考図書】

適宜紹介する。

**【履修上の注意】**

実習は演習とセットである。そのことを理解したうえで、受講して頂きたい。

**【学生へのメッセージ】**

自らの実践を丁寧に吟味することが肝要です。客観的な眼差し、自らを内省する姿勢を大切にして、授業に臨んで頂きたい。

科目名	子ども家庭福祉実習Ⅲ（児童相談所）				
担当者	山田勝美・林知然				
開講期	前期	履修年次	2年次	必修選択別	選択
単位数	2単位	時間数	30時間	授業形式	講義
カテゴリ					

## 【科目の目的】

虐待のリスクをアセスメントする能力、攻撃性や支配性の高い親のそうした態度を受けとめつつ関係形成を図る能力、そのうえで、親自身がその生育歴のなかで抱え込まれているトラウマや過去の傷つき体験の聴き取りやケア、そのうえで、親が自らの生活を主体的に再建していくための支援等、児童相談所に求められている専門性も高度化したものとなっていると考えられる。

本実習では、当該学生が入学前に獲得した知見やスキルを確認したうえで、新たな専門性の体得に向け、実習計画を作成し、実習に臨む。実習では、現場における実習指導者の指導を受けつつ、自ら内省しながら実践を展開する。

具体的には、まず学生が自らの実践経験をふまえ、実習において身に着けるべき知識や技能等の課題を明確化できるよう確認していく作業を行う。次に、その明確化した課題を言語化し、実習計画書を文献等をふまえつつ、まとめていく。そのうえで実習に臨む。実習中においては、現場の指導者との連携のなかで、丁寧に実習において学ぶべき内容を実習生の実習内容との関係からつねに確認し、効果的な学びを得られるようにする。実習後は、自らの行為を内省・洞察するなかで、いかに思考し、実践を展開すべきであったかを言語化する。

## 【到達目標】

（知識・理解）

- ・自らの実践における課題を通して、身に着なければならぬ専門性を言語化できる。

（思考・判断・表現／思考・技能・実践）

- ・実践のなかで技能の向上を図り、その成長を言語化できる。

（態度・志向性）

- ・実践に対し洞察を深めようとする態度を維持し続けられる。

## 【授業内容】

第1回 オリエンテーション：授業の目的と方法：実習の目的と意義

第2回 実習事前指導：実習目標の明確にし、実習計画書を作成する。

第3回 実習① 週1回7時間の実習を行う。

現場実習指導者と大学教員・学生を交え、実習プログラム内容の確認等を行う。

第4回 実習② 同上

第5回 実習③ 同上

第6回 実習④ 同上

第7回 実習⑤ 同上

第8回 実習⑥ 実習中間まとめ：実習前半の自らの関り等を確認し、あらためて後半の実習課題を明確化する。

第9回 実習⑦ 週1回7時間の実習を行う。

現場実習指導者と大学教員・学生を交え、実習プログラム内容の確認等を行う。

第10回 実習⑧ 同上

第11回 実習⑨ 同上

第12回 実習⑩ 同上

第13回 実習⑪ 同上

第14回 実習⑫ 同上

第15回 実習事後指導：実習における自らの行為を内省・洞察するなかで、いかに思考し、実践を展開すべきであったかを言語化する。自身の課題を明確化し、次の実習や自身の実践現場での活動へ繋げる。

## 【授業外の学修】

実習指導教員から課題を提示する場合がある。

**【教育方法】**

・各自の実践を対話形式で振り返る。他の学生の報告を自らの学びへと結び付け、省察し、深い理解へと進めていく。

**【評価方法】**

(知識・理解)

自らの実践上の課題を理論等と結び付けて理解できる 40%

(思考・判断・表現／思考・技能・実践)

自らの実践を内省し、求められる課題を思考できる 30%

(態度・志向性)

実習の意義を理解し、積極的に課題等に取り組むことができる 30%

**【必携図書】**

特になし

**【参考図書】**

適宜紹介する

**【履修上の注意】**

・実習は、事前準備と事後指導がメインとなるが、常に、課題意識を持ち、授業に参加して頂きたい。

**【学生へのメッセージ】**

・実習は、学生と実習先の指導者及び大学教員の三者関係のなかで展開されていく。自らの実践経験を大切にしつつも、それにとらわれ過ぎず、指導者の指導等に対して、自らを開示し、学ぶという姿勢を持ちながら取り組んで頂きたい。

科目名	子ども家庭福祉実習Ⅲ（児童相談所）				
担当者	山田勝美・林知然				
開講期	前期	履修年次	2年次	必修選択別	選択
単位数	2単位	時間数	90時間	授業形式	実習
カテゴリ	実習・演習科目（実習科目）				

## 【科目の目的】

虐待のリスクをアセスメントする能力、攻撃性や支配性の高い親のそうした態度を受けとめつつ関係形成を図る能力、そのうえで、親自身がその生育歴のなかで抱え込まれているトラウマや過去の傷つき体験の聴き取りやケア、そのうえで、親が自らの生活を主体的に再建していくための支援等、児童相談所に求められている専門性も高度化したものとなっていると考えられる。

本実習では、当該学生が入学前に獲得した知見やスキルを確認したうえで、新たな専門性の体得に向け、実習計画を作成し、実習に臨む。実習では、現場における実習指導者の指導を受けつつ、自ら内省しながら実践を展開する。

## 【到達目標】

（知識・理解）

- ・自らの実践における課題を通して、身に着なければならぬ専門性を言語化できる。

（思考・判断・表現／思考・技能・実践）

- ・実践のなかで技能の向上を図り、その成長を言語化できる。

（態度・志向性）

- ・実践に対し洞察を深めようとする態度を維持し続けられる。

## 【授業内容】

第1回 オリエンテーション：授業の目的と方法：実習の目的と意義

第2回 実習目標の明確化①何を学ぶ必要があるのか、その言語化を図る

第3回 実習目標の明確化②教員と学生との討議をふまえ、目標を客観化し、明確にする

第4回 実習プログラムの検討①どういったプログラムを行う必要があるのかを言語化する

第5回 実習プログラムの検討②教員と学生との討議をふまえ、プログラム内容の客観化を図る

第6回 実習①週1回、現場実習指導者と大学教員・学生を交え、プログラム内容の確認等を行う。

第7回 実習②同上

第8回 実習③同上

第9回 実習④同上

第10回 実習⑤同上

第11回 実習⑥同上

第12回 実習⑦同上

第13回 実習の振り返りと課題の明確化①

第14回 実習の振り返りと課題の明確化②

第15回 実習の総括

## 【授業外の学修】

- ・実習指導教員から指示され課題を自宅において取り組む

## 【教育方法】

- ・少人数である利点を生かし、小グループでのディスカッションを中心に授業を展開する。

## 【評価方法】

（知識・理解）

自らの実践上の課題を理論等と結び付けて理解できる 40%

（思考・判断・表現／思考・技能・実践）

自らの実践を内省し、求められる課題を思考できる 30%

（態度・志向性）

実習の意義を理解し、積極的に課題等に取り組むことができる 30%

## 【必携図書】

特に指定しない。適宜必要に応じ紹介する。

**【参考図書】**

適宜紹介する。

**【履修上の注意】**

実習は演習とセットである。そのことを理解したうえで、受講して頂きたい。

**【学生へのメッセージ】**

自らの実践を丁寧に吟味することが肝要です。客観的な眼差し、自らを内省する姿勢を大切にして、授業に臨んで頂きたい。